

# A Whisper of Nature 2013

## 目次

<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-01 号 .....	3
<b>雑 想</b> 生田緑地の冬鳥 .....	3
1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか” .....	4
2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業 .....	6
3. 自然環境の保全に関する実践的事業 .....	7
4. その他 .....	8
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-02 号 .....	9
<b>雑 想</b> シオヤトンボ .....	9
1. 自然環境に関する調査研究事業 .....	10
2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業 .....	12
3. 自然環境の保全に関する実践的事業 .....	14
4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業 .....	14
5. その他 .....	15
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-03 号 .....	16
<b>討 報</b> .....	16
1. 自然環境に関する調査研究事業 .....	17
2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業 .....	19
3. 自然環境の保全に関する実践的事業 .....	20
4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業 .....	21
5. その他 .....	21
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-04 号 .....	23
<b>雑 想</b> ツチアケビ .....	23
1. 自然環境に関する調査研究事業 .....	24
2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業 .....	27
3. 自然環境の保全に関する実践的事業 .....	28
4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業 .....	30
5. その他 .....	30
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-05 号 .....	31
<b>雑 想</b> 生田緑地ビジョンに描かれた協働のプラットフォームは実現できるのか? .....	31
1. 自然環境に関する調査研究事業 .....	32
2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業 .....	35
3. 自然環境の保全に関する実践的事業 .....	38
4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業 .....	38
5. その他(7月) .....	39
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-06 号 .....	40
<b>雑 想</b> モニタリングサイト 1000 里地調査で見えてきた生田緑地の植物相 .....	40

1. 自然環境に関する調査研究事業.....	41
2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業.....	44
3. 自然環境の保全に関する実践的事業.....	47
4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業.....	48
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-07 号 .....	49
雑 想    モニタリングサイト 1000 里地調査 .....	49
1. 自然環境に関する調査研究事業.....	50
2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業.....	55
3. 自然環境の保全に関する実践的事業.....	57
4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業.....	58
5. その他.....	58
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-08 号 .....	59
雑 想    ツチアケビ.....	59
1. 自然環境に関する調査研究事業.....	60
2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業.....	63
3. 自然環境の保全に関する実践的事業.....	65
4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業.....	65
5. その他.....	66
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-09 号 .....	67
雑 想    シンポジウム「川崎の自然と生物多様性」.....	67
1. 自然環境に関する調査研究事業.....	70
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-10 号 .....	76
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-11 号.....	88
<i>A Whisper of Nature</i> 第 13-12 号 .....	95

# A Whisper of Nature 第13-01号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》平成25年4月4日配信

雑 想 生田緑地の冬鳥



記録的に冬鳥が少なかった昨年と違い、今冬は多くの冬鳥が、生田緑地を訪れてくれました。中でも、アトリの群れは4年ぶり、ミヤマホオジロは5年ぶり、ウソの群れがのんびり桜の芽や蕾をついばむのを何度も観られるのは6年ぶりです。

ところが、一昨年まで冬の常連だったトラツグミは、

やってきてはいるものの目撃情報がかなり少なく、周辺地域でも数が少ないということでした。そのトラツグミが一羽、3月になってからようやく姿を現わすようになり、鳥好きの人達を楽しませてくれました。とても綺麗な個体で、斜面で落ち葉をひっくり返して昆虫や木の実を

探していました。

冬鳥達は繁殖地への旅立ちの季節を迎えています。無事に繁殖地に辿り着き、来冬にまた緑地を訪れてくれることを、願って止みません。

(野鳥班 森 佳子)

## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査(3月)

以下の調査を行いました。植物関係は冬季は標本制作、収蔵庫の整理やメンテナンスが中心となります。その他の班は3月も調査を中心とした活動を行いました。

#### ●植物班

- 3/6 標本整理等と同定
- 3/13 標本整理等と同定
- 3/18 高津区下作延 採集・調査
- 3/6、3/21 宮前区 採集・調査
- 3/27 標本整理等と同定
- 3/3、3/7、3/8、3/13、3/14、3/16、3/18、3/19 標本同定  
資料収集グループ
- 3/19、3/28 川崎区大師河原調査

#### ●シダ植物班

- 3/1 生田緑地ホラシノブ調査、標本整理等
- 3/15 標本整理、次年度活動計画
- 3/29 麻生区 採集  
標本整理等と生田緑地調査

#### ●野鳥班

- 3/12 生田緑地調査
- 3/20 大師河原調査
- 3/21 黒川調査
- 3/26 黒川調査

#### ●キノコ班

- 3/7 生田緑宇調査
- 3/21 生田緑地調査

#### ●昆虫班

- 蛾類
- 生田緑地調査
- 3/2、3/7、2/14、3/22、3/28

★★新班“水辺調査班”を設置し、参加者を募集します！★★

第8次調査を進めるために水辺で出会える全生物を対象として調査する班を新たに立ち上げたいと思っています。つまり、調査対象ではなく、水辺という調査場所を特定して、調査を行うための班です。

例えば、植物班に所属しながら、水草や水辺の植物を採集するために水辺調査班にも参加することができます。

水辺に生息する生物を調査する時の負担を軽減することを目的としていますので、活動は1~2年程度、第8次調査が終了したら解散する予定です。

・調査地 麻生区黒川から始めていこうと思います。

・調査分野 水生生物、植物、コケ、貝類、両生類、爬虫類等 可能な範囲で水辺で出会える全生物を対象にします。

・調査期間 7月~10月位を予定

★調査参加希望者は連絡をお願いいたします。

## 2) 環境省モニタリングサイト1000里地調査 生田緑地調査(3月)

モニ 1000 里地調査に参加を希望される人を募集しています。

今期の調査でモニタリングサイト 1000 里地調査の第2期が終了しました。

第3期のモニタリングサイト 1000 里地調査にも登録しましたので、興味のある人は、是非、ご連絡ください。調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ 1000 里地調査 生田緑地連絡担当 岩田臣生

### ●植物相調査(植物班)

3/27 AB 渡部、吉留、林、CD 武久、白澤、EFG 吉田、谷口、HIJ 佐藤登喜子、佐藤ミツ子、佐崎藤子

### ●水環境調査

3/23 [水環境調査](#) (水田ビオトープ班 岩田臣生)

## 3) 皆でできる自然調査

今年はカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べます！

皆でできる自然調査は川崎市青少年科学館（通称:宙と緑の科学館）との協働事業として再スタートします。

★今年度は対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

その始めとして《カエル調査》を始めます。

カエルの情報を教えてください。

市内の何処で、何時、誰が、何(卵、オタマジャクシ、成体)を見たのか、写真があるとよりベストです。

問い合わせなど、大歓迎です。

皆様の情報を待っています。

なお、4月はじめには両生類、爬虫類、コウモリ類などの調査用紙ができる予定です。(現在科学館と制作中です)

4月中旬からは川崎市青少年科学館（通称:宙と緑の科学館）でも問い合わせに対応する予定です。

担当 岩田芳美

## 2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(3月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1～3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

★★2012年4月～2013年3月の間の観察会参加者は1100人を超えました。年間48回の時には何度かありましたが、年間36回の開催になってからは初めての1000人超えです。

#### ● 3/3 植物の観察

晴 参加者 58名 (植物班 吉田多美枝、佐藤登喜子、谷口紀美代)

花は咲いていなかったが早春の草木の様子を観察した。

菖蒲池の園路の脇に犬の糞がありました。参加者が踏まないように班員が始末をしたが、観察会時に時々みかけます。

看板などで糞の持ち帰りを徹底してほしいと思います。



#### ● 3/10 里山の自然の観察

晴 参加者 23名 (水田ビオトープ班 岩田臣生、植物班 佐藤登喜子)

出会った生物全てを対象として、早春の里山の自然を体験して戴きました。

1番の目玉はアズマヒキガエル。今年は7～8日が産卵日でした。

上の田圃には8匹の♂が残っていたので皆さんじっくりと観察し、楽しんでいました。

今回は植物班の佐藤さんに応援を戴きゆとりをもってガイドができました。



#### ● 3/17 野鳥の観察

晴 参加者 56名 (野鳥班 大橋毅、金井美智子、平賀孝政、大森洋子)

野鳥の森コース、ほたるの里コースと2コースに分かれて観察。

観察した鳥は19種。冬鳥は少なかったけれどヒガラ、モズ、ウソなどをじっくりと観察できました。

今回も参加者は50人を超え鳥の観察には多すぎでした。対応策を考慮する必要がありそうです。



(上の写真は、左から 3/3 植物、3/10 里山の自然、3/17 野鳥の観察会風景です。)

## 2) 里山の自然学校(3月)

次年度の参加者 22 人が確定しました。

川崎市内の小中学生が 77%でした。

4月21日(日)が第1回「オリエンテーション&春の里山」です。

参加手続き、オリエンテーションは東口ビジターセンターで行います。

## 3) 講師派遣(3月)

3/22 下作延小学校 身近な自然の勉強 ( 中臣謙太郎、吉田多美枝 )

## 4) 生田緑地ビジターセンターでの野鳥の常設展示を始めました！

ビジターセンター来訪者からの希望が多い野鳥情報の展示を、調査団野鳥班が頼られました。

3月5日に総合企画局の磯部由喜子さん(現在、生田緑地整備事務所課長補佐)と一緒にビジターセンター2階に展示を行いました。

このメール版団報のトラツグミの写真も展示されていますよ。

## 3. 自然環境の保全に関する実践的事業

### 1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(3月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

3月は水辺の活動やカナムグラの駆除も始まりました。

今年は、サクラやスミレの開花が早く、活動に追われていました。

4月は、ヨシ刈り、田起こし、アメリカザリガニ駆除など、泥とまみれる活動が多くなります。

(水田ビオトープ班)

3/2 上の田圃の上の草地の草刈り(2人)

3/6 カサスゲ刈り(3人)

3/8 生物の生息環境を再生・保全する活動(5人)

3/13 生物の生息環境を再生・保全する活動(湿地、芝生広場西)(3人)

3/15 生物の生息環境を再生・保全する活動(城山下谷戸)(2人)

3/19 ヤマグワフやカナムグラの駆除、スミレの生育地のモニタリング(4人)

3/26 湿地～竹林地区の水辺管理、上の田圃下のカナムグラ駆除(5人)

3/30 下の田圃のコガマの駆除、ヨシ刈り、カナムグラ駆除など(2人)

3/31 浸種(1人)

## 3. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

### 1) 生田緑地マネジメント会議

生田緑地植生管理協議会は3月で廃止となり、新たに設けられた生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議(以下、ここでは自然会議という。)がその機能を継承することになりました。

生田緑地の自然を保全するために合議によってつくってきた植生管理計画は行政計画として位置付けられることになりました。

また、市民部会“里山倶楽部”は、自然会議の下で、今まで通り市民部会“里山倶楽部”として継続することになりました。

自然会議の会長は植生管理協議会会長であった倉本・明治大学教授、同副会長には調査団から水田ビオトープ班の岩田班長が就任しました。

3/12 生田緑地植生管理協議会総会

3/18 生田緑地マネジメント会議設立総会

3/25 生田緑地植生管理協議会 生田緑地マネジメント会議自然会議の準備

#### 4. その他

##### 1) 生田緑地整備事務所が設置されました

平成 25 年 4 月 1 日付で、元の北部公園事務所に「生田緑地整備事務所」が設けられ、多摩区道路公園センターや公園緑地まちづくり調整室などとの兼務ながら 6 人の職員が配置されました。

所長は、多摩区役所道路公園センター整備課協働担当課長の佐藤力氏です。

Tel: 044-934-8577

##### 2) 生田緑地に指定管理者制度が導入されました

平成 25 年 4 月 1 日から生田緑地の管理業務を(指定管理者)生田緑地運営共同事業体が行っています。

生田緑地の自然に関わる業務を担当しているスタッフは生田緑地整備事務所 1 階にいます。

Tel: 044-933-2063

#### ////////// 4~5 月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

4 月

-----  
6 日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第B-1回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)

-----  
7 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
14 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【里山の自然】(水田ビオトープ班)

-----  
20 日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-1回 (中止)

-----  
21 日(日)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第1回【オリエンテーション&春の里山】

-----  
21 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)

-----  
26 日(金)13:00~ ●特定非営利活動法人かわさき自然調査団 第1回理事会

-----  
26 日(金)14:00~ ●特定非営利活動法人かわさき自然調査団 平成 25 年度通常総会

-----  
26 日(金)18:30~ ●生田緑地マネジメント会議第1回運営会議  
-----

5 月

-----  
4 日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-2回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)

-----  
5 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
12 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【土壌動物】(水田ビオトープ班)

-----  
18 日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-2回 「生田緑地の自然を見て歩こう(1)」 (里山倶楽部事務局)  
-----



19日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【シダ】(シダ植物班)

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。

■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

### //////////《編集後記》//////////

3月は気温が高い日が多く、桜の開花も早く、その下に咲くスミレの開花も早く、モニタリングのタイミングをつかめずに苦労させられました。

保護管理をしている場所では少しずつ増えているようでしたが、放置されて株数が減少してきたところで昨年手を入れた場所では、まだ手入れの効果は見られません。

名前や場所を公表できない数種の植物についても、開花は確認したものの、数は前年より減っている種もありました。

自然調査の枠が少し膨らみます。

特に水辺調査は今までの班の枠にとらわれないで、多くの方に参加をしていただくと嬉しいです。

川崎に残された希少な水辺を守るための資料づくりと思っています。

細心の注意を持って調べたいと思っています。

## A Whisper of Nature 第13-02号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》平成25年5月2日配信

### 雑想 シオヤトンボ

多摩丘陵の谷戸の水辺で活動しているとオスは灰白色、メスは麦わら色という組み合わせのトンボに出会います。そのトンボはシオヤトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボのいずれかだろうと思います。

谷戸に限らず街中でも、大きな河川でも見られるのがシオカラトンボです。逆に環境に大きく依存するのがシオヤトンボで、神奈川県東部では急減していて神奈川県レッドデータブック2006では要注意種としています。

東京都区部および北多摩では絶滅危惧II類としています。

面白いのは、この3種は止まり方が異なります。シオカラトンボは棒など尖ったものの先端によく止まります。オオシオカラトンボは横に張られたヒモなど横向き線状のものによく止まります。シオヤトンボは平面に張り付くように止まります。

つまり、点、線、面と好む場所が異なるのです。

気性も異なります。シオヤトンボが最もおとなしくて、シオカラトンボが最も荒い性格をしています。これは縄張り争いや餌を捕食している様子などからの想像です。

出現時期が最も早く、出現期間が短いのがシオヤトンボです。

これだけ見ても、最も弱いトンボがシオヤトンボだと言えそうです。

毎年、出会えると、まだ生き残っていたかと安堵します。

今年はまだメスしか見ていません。離れて見ているので未熟なオスということもあるとは思いますが、個体数が少なくなると命をつなげるのかと心配になります。

こんなトンボのために、今年もまたアメリカザリガニの駆除に精を出すことになりそうです。



## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査(4月)

以下の調査を行いました。植物関係は標本制作、収蔵庫の整理やメンテナンスが中心となります。

その他の班は4月も調査を中心とした活動を行いました。

#### ●植物班

4/3 標本整理等と観察会下見

4/10 標本整理等

4/17 生田緑地調査と標本整理

4/24 標本整理

4/12 幸区 調査

4/22 中原区 調査

4/22 高津区 調査

4/4、7、9、13、22 多摩区 調査

4/5、10 宮前区 調査

4/5、18、26 麻生区 調査

4/1、4/2、4/4、4/5、4/6、4/7、4/9 標本同定

★昨年度採集標本の大部分の同定が終了しました。

資料収集グループ

4/25 幸区さいわい緑道、中原区平間公園の調査

#### ●シダ植物班

4/5 生田緑地ホラシノブ調査、標本整理等

4/12 標本整理

4/19 標本整理

#### ●野鳥班

4/9 生田緑地調査

4/11 黒川調査

4/20 大師河原調査

4/23 黒川調査

## ●キノコ班

4/11 生田緑宇調査

4/25 生田緑地調査

## ●昆虫班

蛾類

生田緑地調査 4/5、4/6、4/12、4/18、4/25、4/27

## ★★新班“水辺調査班”を設置し、参加者を募集します！★★

第8次調査を進めるために水辺で出会える全生物を対象として調査する班を新たに立ち上げたいと思っています。つまり、調査対象ではなく、水辺という調査場所を特定して、調査を行うための班です。

例えば、植物班に所属しながら、水草や水辺の植物を採集するために水辺調査班にも参加することができます。

水辺に生息する生物を調査する時の負担を軽減することを目的としていますので、活動は1～2年程度、第8次調査が終了したら解散する予定です。

・調査地 麻生区黒川から始めていこうと思います。

・調査分野 水生生物、植物、コケ、貝類、両生類、爬虫類等 可能な範囲で水辺で出会える全生物を対象にします。

・調査期間 7月～10月位を予定

★調査参加希望者は連絡をお願いいたします。

## 2) [環境省モニタリングサイト1000里地調査 生田緑地調査](#) (4月)

モニタリングサイト1000里地調査に参加を希望される人を募集しています。

今期の調査でモニタリングサイト1000里地調査の第2期が終了しました。

第3期のモニタリングサイト1000里地調査にも登録しましたので、興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニタリングサイト1000里地調査 生田緑地連絡担当 岩田臣生

## ●植物相調査(植物班)

4/17 4月より調査コースを変更しました。(参照:下図)

A:野鳥の森コース、B～D:県の木見本園と中央広場を中心としたコース、E～F:七草峠、芝生広場、戸隠不動跡地コース。

この日はA～Dのコースを植物班全員で調査し、E～Fコースを帰路に佐藤、白澤が調べました。



## ●水環境調査

4/27 [水環境調査](#) (水田ビオトープ班 岩田臣生)

### 3) 皆でできる自然調査

今年はカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べます！

★今年度は対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

皆でできる自然調査は川崎市青少年科学館（通称:宙と緑の科学館）との協働事業として今年度、次年度は調査を行います。

調査用紙は近日中に完成予定ですが、情報は用紙とは関係なく何時でも受け取りたいと思っています。

調査団アドレスにご連絡お願いいたします。

市内の何処で、何時、誰が、何を見たのか、写真があるとよりベストです。

問い合わせなど、大歓迎です。

担当 岩田芳美

## 2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(4月) (川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1～3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

### ● 4/7 植物の観察

晴 参加者 30 名 (植物班 佐藤登喜子、谷口紀美代、吉留憲子)

中央広場⇒メタセコイア林⇒香りの園⇒七草峠  
早春の花を観察しました。

スミレ類9種、タネツケバナ、キュウリグサ、ハナイバナ、タンポポ類等を観察。

前日の雨が朝方まで降っていたためか、参加者は少なめでスムーズに進行できました。



### ● 4/14 里山の自然の観察

晴 参加者 23 名 (水田ビオトープ班 岩田臣生)

出会った生物全てを対象として観察しました。

植物では麦とともに渡来した史前帰化植物の花とよく似た花を持つ植物の比較観察。タマノカンアオイ、フデリンドウなどの観察。

動物ではツマキチョウ、アズマヒキガエル(オタマジャクシ)、シュレーゲルアオガエル(声)などを観察。

大人はフデリンドウ、ウラシマソウなどの花を楽しんでいました。子どもはシャクガ幼虫、ナナフシモドキの動きに目を輝かせていました。



### ● 4/21 野鳥の観察

雨天中止

★★2013 年4月の野鳥観察会は雨のため中止となりました。

前々日の金曜日には観察会の下見をしていた野鳥班メンバーに会いました。

なお、次回の野鳥観察会は11月です。

## 2) 里山の自然学校(4 月)

第 1 回「オリエンテーション&春の里山」

参加者は 22 人の予定で用意していましたが、当日の朝、こんな雨の中でも実施するのは非常識とクレームをつけてきた人がキャンセルして、21 人でスタートとなりました。

4 月 21 日(日) 9:30、雨が降る中、生田緑地ビジターセンターで参加手続き、10:00 からオリエンテーションを行い、11:00 からアオキの葉で観察の学習を行い、そのまま室内でお弁当を済ませました。

雨は昼にはあがって、午後はイモムシであふれる里山を歩きました。

## 3) 講師派遣(4 月)

なし

### 3. 自然環境の保全に関する実践的事業

#### 1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(4月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

4月は、ヨシ刈り、田起こし、アメリカザリガニ駆除、湿地の攪乱など、泥とまみれる活動を予定していましたが、思うようにははかどりませんでした。

しかし、ツマキチョウ、クロセンブリ、ヤトセスジジョウカイ、シオヤトンボなどが姿を見せてくれました。

(水田ビオトープ班)

4/1 田圃のアメリカザリガニ駆除、カナムグラ駆除、下の田圃周辺のヨシ刈りなど(2人)

4/4 カナムグラ駆除、ヨシ原のヨシ刈り(5人)

4/9 入団希望者へのフィールド説明とシラユキゲシ、カナムグラ駆除(2人)

4/10 上の田圃の田起こし、カナムグラ駆除(4人)

4/16 合議に反する樹木伐採でトキホコリは生き残れるのか？ 放置された処理材の片付けとモニタリング、アズマネザサ刈り(3人)

4/19 谷戸の水辺のモニタリングなど(2人)

4/22 谷戸の水路変更、湿地の攪乱、ヤマグワ刈り、セリバヒエンソウ駆除など(3人)

4/27 モニ1000水環境調査(1人) セリバヒエンソウ、シラユキゲシの駆除など(1人)

4/30 湿地のチゴザサ、ヤマグワ、カナムグラ、アメリカザリガニなどの駆除(4人)

#### 2) 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会

里山倶楽部A

4/6(土)里山倶楽部 2013-A01回《皆伐更新地区と萌芽更新地区のモニタリングとアズマネザサ刈り》

里山倶楽部B

3月に生田緑地植生管理協議会が廃止され、4月から 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議として機能が継承されましたが、この関係で活動承認が遅れたため、4月は中止しました。

#### 3) 生田緑地ホタルの国

今年のホタルの国は次の期間の開催とします。

期間 6月14(金)～6月30日(日)

ホタル・ガイド・ボランティアの募集も開始しました。

今年も大勢の参加を期待しています。

ホタル・ガイド・ボランティア研修会は次の通り行います。初めてホタル・ガイド・ボランティアに参加したいという人は研修会に参加してください。

ホタル・ガイド・ボランティア研修会

日時 5月25日(土)10～12時

場所 生田緑地整備事務所2階

#### 4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

##### 1) 生田緑地マネジメント会議

4/23 自然環境保全管理会議会長・副会長会議(運営会議へのメッセージについて)

4/26 生田緑地マネージメント会議 第1回運営会議 が開催されました。

## 2) 生田緑地運営共同事業体との現地立会等

4/8 指定管理者の管理業務と調査団の活動との調整のための現地協議(水田ビオトープ班、シダ植物班)

4/10 指定管理者と樹木伐採についての現地立会(水田ビオトープ班)

4/24 生田緑地の雑木林を育てる会の活動について、生田緑地整備事務所、生田緑地運営共同事業体と現地立会(水田ビオトープ班、事務局)

生物の棲息環境を保全するための活動をしている区域の端部のアズマネザサ刈りを行いたいという申出があり、その範囲と方法について現地で立ち会い協議しました。

## 5. その他

### 1) 特定非営利活動法人かわさき自然調査団平成25年度総会

4月26日午後2時から特定非営利活動法人かわさき自然調査団の総会を開催しました。

平成24年度事業報告及び活動決算、平成25年度事業計画及び活動予算が承認されました。

また、役員の変更では現理事が再選され、総会終了後に理事の互選により三島次郎が団長に再選されました。

### ////////// 5~6月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

5月

-----  
4日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-2回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)

-----  
5日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
12日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【土壌動物】(水田ビオトープ班)

-----  
15日(水)13:00~ ●理事班長会議

-----  
18日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-2回 「野鳥の森周辺エリアの雑木林を観察し、生田緑地の自然について考えてみよう！」(里山倶楽部事務局)

-----  
19日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【シダ】(シダ植物班)

-----  
22日(水)10:00~ ●生田緑地マネージメント会議 第1回自然環境保全会議

-----  
25日(土)10:00~12:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア研修会

-----  
26日(日)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第2回【田植え】

6月

-----  
1日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第B-3回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)

-----  
2日(日)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第3回【7°-ルのヤゴの救出作戦】

-----  
2日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
9日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【クモ】(クモ班)

-----  
14日(金)19:00~21:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア(1)

15日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-3回 「中央地区北側エリアの雑木林を観察し、生田緑地の自然について考えてみよう！」(里山倶楽部事務局)

15日(土)18:00~19:00 ●ホタル観察会(1)

15日(土)19:00~21:00 ●ホタル・ガイド・ボランティア(2)

16日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

16日(日)19:00~21:00 ●ホタル・ガイド・ボランティア(3)

21日(金)19:00~21:00 ●ホタル・ガイド・ボランティア(4)

22日(土)18:00~19:00 ●ホタル観察会(2)

22日(土)19:00~21:00 ●ホタル・ガイド・ボランティア(5)

23日(日)16:00~21:00 ◆里山の自然学校 第4回【ホタル観察】

23日(日)19:00~21:00 ●ホタル・ガイド・ボランティア(6)

26日(水)13:30~ ●生田緑地マネジメント会議 全体会

28日(金)19:00~21:00 ●ホタル・ガイド・ボランティア(7)

29日(土)19:00~21:00 ●ホタル・ガイド・ボランティア(8)

30日(日)19:00~21:00 ●ホタル・ガイド・ボランティア(9)

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。  
■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

### //////////《編集後記》//////////

誰も知らない間に行われた、あじさい山の隣地の杉の除伐と枝打ちには驚きました。

4月8日に生田緑地整備事務所、指定管理者、調査団水田ビオトープ班およびシダ植物班が、生田緑地の管理について注意すべき点を現地で確認、協議するための立会をしている時に見つけました。

雑木林の広範囲に散乱した杉の枝や皮の余りの汚さに驚きました。

生田緑地植生管理協議会、行政が知らない間に生田緑地の雑木林を育てる会が作業したようです。

このような作業にクレームをつけるのは調査団事務局だけで、いつも私どもが悪役になると言ったところ、シダ植物班、野鳥班から当該作業に対する抗議文が届きました。

書いてくださった皆さんありがとうございました。関係者に送りました。

なお、水辺保護、雑木林の林床保護と景観のために、林内に放置されたスギの残枝の運び出し作業を水田ビオトープ班が行いました。

その作業のおかげか、スギの皮の下になっていたシャガが数日後から咲き出しました。予定外の景観回復です。

## A Whisper of Nature 第13-03号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》平成25年6月4日配信

### 訃報

当調査団理事の林長閑博士が 5月29日に永眠されました



林先生は甲虫幼虫研究の第一人者として 60 年以上にわたり輝かしい業績を残されました。

全ての分野の甲虫幼虫を研究する学者は、林先生をおいて外に知りません。

正倉院の御物など日本の重要な文化財を加害した甲虫幼虫、家屋害虫、貯蔵穀類の害虫など調査に協力もされてきました。

かと思うと、子ども向けの絵本なども手掛けていて、地方の虫好きの子どもたちからの問い合わせを調査団が頂戴することもありました。

川崎市と先生との関わりは、1982 年に川崎市青少年科学館が自然系博物館として博物館登録をした時にさかのぼります。

当時の川崎市には自然に関する満足な資料も記録も無く、ましてや指導者も居ない状態でした。それを打破するために川崎市自然環境調査が計画されたのです。

林先生はその調査の企画段階からご自身の調査研究の時間を削られて川崎市自然環境調査という協働を牽引する専門家として、調査を指導してくださいました。

市民ボランティアには優しく、自然と接する楽しさを教えてくださいました。

そして青少年科学館の職員には博物館の使命を厳しくご指導されていました。

第1次、第2次、第3次の自然環境調査の時には、ご自身が中心となって専門外のチョウやトンボの調査も行い、調査の基本（基礎）、調査方法を職員や市民に示されました。

この時の資料は、今も、川崎の自然を語る上での基礎となっています。

川崎市自然環境調査に参加してきた市民ボランティアが任意団体としての「かわさき自然調査団」になり、更に「特定非営利活動法人かわさき自然調査団」となっていく過程において、陰になり、日向となって支え続けてくださいました。

ご体調を崩されて生田緑地に来ることが叶わなくなっても、調査団の理事であり続けるという強い意志があったと奥様から伺いました。

そんな先生だったから、私たちにとっては精神的な拠り所となっていました。

先生を失うことは調査団にとって大きな痛手です。

虫と古美術品をこよなく愛された林長閑先生 謹んでご冥福をお祈りいたします。

岩田芳美

## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査 (5月)

以下の調査を行いました。

#### ●植物班

5/1 標本整理等と観察会下見

5/8 標本整理等

5/15 標本整理

5/22 標本整理

5/29 標本整理等と観察会下見

5/30 川崎区 調査

5/2、5/10、10、17 多摩区 調査

5/18、5/25 宮前区 調査

5/13、5/25、5/31 麻生区 調査

全体活動日以外の標本同定等の作業

5/7、5/10、5/11、5/12、5/13、5/14、5/15、5/18、5/26、5/30 標本同定

資料収集グループ

5/15、5/30 宮前区神木 等覚院の調査

### ●シダ植物班

5/10 生田緑地ホラシノブ調査、標本整理等

5/17 生田緑地調査

5/30 川崎区調査

5/31 幸区夢見ヶ崎調査

### ●野鳥班

5/9 黒川調査

5/10 生田緑地調査

5/19 大師河原調査

5/28 黒川調査

### ●キノコ班

5/9 生田緑宇調査

5/23 生田緑地調査

### ●昆虫班

5/5 黒川調査

蛾類蛾類研究グループ

生田緑地調査 5/9、5/23、5/27

データベース作成作業 5/16、5/30

### ★★新班“水辺調査班”を設置し、参加者を募集します！★★

第8次調査を進めるために水辺で出会える全生物を対象として調査する班を新たに立ち上げたいと思っています。つまり、調査対象ではなく、水辺という調査場所を特定して、調査を行うための班です。

例えば、植物班に所属しながら、水草や水辺の植物を採集するために水辺調査班にも参加することができます。

水辺に生息する生物を調査する時の負担を軽減することを目的としていますので、活動は1～2年程度、第8次調査が終了したら解散する予定です。

・調査地 麻生区黒川から始めていこうと思います。

・調査分野 水生生物、植物、コケ、貝類、両生類、爬虫類等 可能な範囲で水辺で出会える全生物を対象にします。

・調査期間 7月～10月位を予定

★調査参加希望者は連絡をお願いいたします。

### 2) [環境省モニタリングサイト1000里地調査](#) 生田緑地調査 (5月)

モニタリング1000里地調査に参加を希望される人を募集しています。

第3期のモニタリングサイト1000里地調査が今年度から始まっています。興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ1000里地調査 生田緑地連絡担当 岩田臣生

### ●植物相調査

5/8 モニ1000 植物相調査(植物班)

### ●鳥類調査

5/17 繁殖期鳥類調査(野鳥班 森)

### ●中大型哺乳類調査

5/2 モニ1000)哺乳類調査定点カメラ設置(1人)(水田ビオトープ班 岩田臣生)

5/31 モニ1000 哺乳類調査定点カメラ回収(1人)(水田ビオトープ班 岩田臣生)

### ●水環境調査

5/28 モニ1000 水環境調査(1人)(水田ビオトープ班 岩田臣生)

## 3) 皆でできる自然調査

今年のカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べます！

★今年度は対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

皆でできる自然調査は川崎市青少年科学館(通称:宙と緑の科学館)との協働事業として今年度からは調査を行います。

調査用紙は配布を開始しました。科学館ホームページからも読み取れます。調査団員と皆の調査参加の皆さんには後日用紙を郵送をいたします。

担当 岩田芳美

## 4) 連携調査

5/16(木) さいわい夢ひろば友の会 連携調査についての話し合い(事務局)

5/30(木) [大師河原水辺の楽校](#) [多摩川河口の植物調査](#)(事務局、種子植物班、シダ植物班)



## 2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(5月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1~3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

### ●5/5 植物の観察

晴 参加者75名(植物班 吉田多美枝、佐藤登喜子、谷口紀美代)

中央広場⇒ツツジ山⇒奥の池

連休のさなかの好天日。参加者は観察会では最高の75名でした。

この日は人出も考え植物班吉留が通行者対応をおこないました。

### ●5/12 土壌動物の観察

晴 参加者 12 名（水田ビオトープ班 佐藤利奈、岩田臣生、岩田芳美）

昨夜来の雨が朝方あがり、コンディションは最悪でしたが、皆さん観察を楽しみました。

12 名中 9 名が観察会初参加者でした。



### ●5/19 シダ植物の観察

晴 参加者 23 名（シダ植物班 大貫はるみ、園田明子、遠藤継男、岩片紀美子、島津きく江、田村成美、林美幸、片山ちとせ、長谷川和甫）

この日も先週同様に雨天が心配されましたが幸いにも晴れました。

参加者の皆さんはシダ植物の生息環境を確認しながら観察を楽しみました。

## 2) 里山の自然学校 (5 月)

[第 2 回「田植え」 参加者 21 人、OB参加者 1 人、講師 7 人](#)

## 3) 講師派遣 (5 月)

5/31 午前 上丸子小学校 植物と昆虫の観察 (中臣謙太郎、吉田多美枝)

## 3. 自然環境の保全に関する実践的事業

### 1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動 (4 月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

4 月は、ヨシ刈り、田起こし、アメリカザリガニ駆除、湿地の攪乱など、泥とまみれる活動を予定していましたが、思うようにははかどりませんでした。

しかし、ツマキチョウ、クロセンプリ、ヤトセスジジョウカイ、シオヤトンボなどが姿を見せてくれました。

(水田ビオトープ班)

[5/2 モニ 1000\) 哺乳類調査定点カメラ設置、田圃のアメリカザリガニ駆除、セリバヒエンソウ駆除など \(2 人\)](#)

[5/8 湿地の子ゴザサ駆除 \(1 人\)](#)

[5/9 田起こし、カナムグラ駆除 \(4 人\)](#)

[5/13 田起こし、カナムグラ駆除 \(3 人\)](#)

[5/15 田圃の施肥 \(1 人\)](#)

[5/17 田起こしと土均し、畦の草刈り、カナムグラ駆除 \(4 人\)](#)

[5/21 下の田圃の代掻き、畦の草刈り \(2 人\)](#)

[5/24 苗の運び込み、苗木畑の草取り、モニタリング \(4 人\)](#)

[5/25 上の田圃のザリガニ穴塞ぎ \(1 人\)](#)

[5/28 モニ 1000 水環境調査 \(1 人\)](#)

## 2) 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会

里山倶楽部A

### 5/4(土) 植生調査、萌芽と実生の成長調査、実生の保護

参加者 2 人、事務局 3 人

切株からの萌芽が生きているのはクヌギ 1、コナラ 2 になってしまいました。

実生は確実に成長しています。

植生調査ではヤマスズメノヒエ、メアオスゲ、ホソバヒカゲスゲなどが新たに見つかりました。

里山倶楽部B

### 5/18(土) 野鳥の森周辺エリアの雑木林を観察し、生田緑地の自然について考えてみよう！

参加者 8 人、事務局 2 人

生田緑地の自然を守るための植生管理ではモニタリングが重要であるということで、当該地域のモニタリングを行いながら、モニタリングの際の指標とすべきものを探し出すという活動を試みました。

途中で、高価なカメラを放置していた人がいて、不用心だからと思い、持ち主を探すという場面があったのですが、一言も言葉を交わすことの無かったその人物から執拗に嫌がらせメールを戴くことになってしまいました。

その人は岩田や調査団を誹謗中傷するメールを手当たり次第に出したり、市長への手紙(サンキューコール)を出すなどしたため、岩田は緑政部長に呼ばれて事情を聴かれることにもなりました。最近の生田緑地にはこのような不穏な人物が横行していますので皆さんも気をつけてください。



## 3) 生田緑地ホタルの国

今年のホタルの国は次の期間の開催とします。

期間 6月14(金)~6月30日(日)

5/14 ホタルの国の運営についての話し合い

5/21 専修大学学生生活課に挨拶、協力要請

5/25 ホタル・ガイド・ボランティア研修会(15人)、蓄光目印貼り(1人)

5/28 蓄光目印貼り(1人)

## 4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

### 1) 生田緑地マネジメント会議自然会議

5/14(火) 事前会議

5/22(火) 第1回自然会議

長池公園から派遣されているという職員に足を引っ張られています。生田緑地には生田緑地のやり方があるということが理解できないようです。

## 5. その他

### 1) 理事・班長会議

5/15(水) 今年度の事業計画について、川崎の生物 100 選について

2) その他

5/23(木) 東京新聞から里山倶楽部についての取材

話が様々なことに飛んでしまい記事にはならなかったと思います。

////////// 6~7月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

6月

- 
- 1日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第B-3回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)
- 
- 2日(日)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第3回【7°-ルのヤゴの救出作戦】
- 
- 2日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)
- 
- 7日(金) ●早野聖地公園ボランティア(事務局、植物班、シダ植物班)
- 
- 9日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【クモ】(クモ班)
- 
- 10日(月) ●さいわい夢ひろば友の会(事務局、植物班)
- 
- 14日(金)19:00~21:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア(1)
- 
- 15日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-3回 「中央地区北側エリアの雑木林を観察し、生田緑地の自然について考えてみよう！」(里山倶楽部事務局)
- 
- 15日(土)18:00~19:00 ●ホテル観察会(1)
- 
- 15日(土)19:00~21:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア(2)
- 
- 16日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)
- 
- 16日(日)19:00~21:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア(3)
- 
- 19日(水) ●黒川地区(事務局、植物班、シダ植物班)
- 
- 21日(金)19:00~21:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア(4)
- 
- 22日(土)18:00~19:00 ●ホテル観察会(2)
- 
- 22日(土)19:00~21:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア(5)
- 
- 23日(日)16:00~21:00 ◆里山の自然学校 第4回【ホテル観察】
- 
- 23日(日)19:00~21:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア(6)
- 
- 25日(火)18:00~21:00 ●日本女子大付属高校生物部ホテル観察会ガイド
- 
- 26日(水)13:30~ ●生田緑地マネージメント会議 全体会
- 
- 28日(金)19:00~21:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア(7)
- 
- 29日(土)19:00~21:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア(8)
- 
- 30日(日)19:00~21:00 ●ホテル・ガイド・ボランティア(9)

7月

- 
- 6日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-4回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)

7日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

14日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【昆虫】(昆虫班)

20日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-4回 「城山下谷戸・戸隠不動尊跡エリアの植生管理をしよう！」  
(里山倶楽部事務局)

21日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【里山の自然】(水田ビオトープ班)

28日(日)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第5回【夜の昆虫観察】

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。  
■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

### //////////《編集後記》//////////

6月2日に執り行われた林先生のお通夜には、かつて先生と一緒に調査をされたこともある小林・前岡本美術館副館長、木下・日本民家園園長、団員の上西、成田と中臣理事、岩田が出席していました。

ほんとうに熱心で、優しくあった在りし日の先生を偲びました。

里山倶楽部Bの途中で高価なカメラを放置していたので物騒だからと探した持ち主はその日以降、調査団に対しては岩田を除名しろ、川崎市に対しては調査団を生田緑地から排除しろとメールを送り続けています。

彼も市民なら、私も市民なのだから市民としての権利は同様にあるということ、川崎市は、調査団は行政側の一員だからと言いました。

クレームをつける人には、事実確認もせずに、ただただご無理ごもっともを貫くということが仕事ですと言われるては呆れるばかりです。

## A Whisper of Nature 第13-04号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》平成25年7月3日配信

### 雑 想 ツチアケビ

別名 ヤマシャクジョウ(山錫杖)

腐生ランで、根茎内にナラタケの菌糸束を取り込んで共生しています。

神植誌2001によると神奈川県東部の記録がありませんが、第2次、第3次の川崎市自然環境調査報告書には市内の記録がありました。ただ、極めて珍しい植物であることは間違いありません。

このツチアケビがやや暗い落葉広葉樹林の林床に花を咲かせていました。

2~3年に1回程度のアズマネザサ刈りをしている場所で、長期間落葉かきをしていなかったところでした。

形も、色も、6月の雑木林の中では目立ちます。あれば、誰でも気が付くと思います。

今回、植物班の植物誌作成のための調査対象リストに載っていなかったことが分かりましたが、そのくらい、川崎には無いと思われていた植物です。

それが、植生管理をしている雑木林で見つかりました。

雑木林の保全活動に対するご褒美をもらったような気持ちになりました。



## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査 (6月)

6月は以下の調査を行いました。

#### ●植物班

6/5 標本整理、保管、同定作業

6/12 調査員養成講座の講義と 標本整理、保管、同定作業

6/19 標本整理、保管、同定作業

6/26 標本整理、保管、同定作業

麻生区調査 6/7、6/14、6/19、6/21

多摩区調査 6/1、6/3、6/4、6/8、6/9、6/26、6/28

宮前区調査 6/15、6/17

高津区調査 6/28

幸区調査 6/10

#### ●資料収集グループ調査

高津区氷川神社付近

下見 6/14

調査 6/27

#### ●シダ植物班

6/7 早野聖地公園調査(予備調査)

6/14 調査員養成講座準備

6/19 黒川谷ツ公園調査

6/21 調査員養成講座 講義とフィールドワーク

#### ●野鳥班

6/11 生田緑地調査



6/14 黒川調査

6/15 大師河原調査

6/25 黒川調査

●キノコ班

生田緑地調査と同定作業 6/13、6/20

●昆虫班

蛾類研究グループ

データベース作成作業 6/1、6/4、6/6、6/27

★★新班“水辺調査班”を設置し、参加者を募集します！★★

第8次調査を進めるために水辺で出会える全生物を対象として調査する班を新たに立ち上げたいと思っています。

つまり、調査対象ではなく、水辺という調査場所を特定して、調査を行うための班です。

例えば、植物班に所属しながら、水草や水辺の植物を採集するために水辺調査班にも参加することができます。

水辺に生息する生物を調査する時の負担を軽減することを目的としていますので、活動は1～2年程度、第8次調査が終了したら解散する予定です。

・調査地 麻生区黒川から始めていこうと思います。

・調査分野 水生生物、植物、コケ、貝類、両生類、爬虫類等 可能な範囲で水辺で出会える全生物を対象にします。

・調査期間 7月～10月位を予定

★調査参加希望者は連絡をお願いいたします。

2) [環境省モニタリングサイト1000里地調査](#) [生田緑地調査](#) (6月)

モニ 1000 里地調査に参加を希望される人を募集しています。

第3期のモニタリングサイト1000里地調査が今年度から始まっています。興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ 1000 里地調査 生田緑地連絡担当 岩田臣生

●植物相調査

6/5 モニ 1000 植物相調査(植物班/ 吉留、武久、林、佐崎、吉田、谷口、渡部、矢口、佐藤(登)、佐藤(三)、白澤)

●鳥類調査

6/6 繁殖期鳥類調査(野鳥班 佐野)

●中大型哺乳類調査(水田ビオトープ班 岩田臣生)

6/1 カメラ設置 C、6/3 カメラ設置 S、A

6/30 カメラ回収 A、C、S

●水環境調査

6/28 モニ 1000 生田緑地 水環境調査(水田ビオトープ班 岩田臣生)

●ホタル調査(水田ビオトープ班 岩田)

6/14、6/15、6/16、6/19、6/21、6/22、6/23、6/24、6/25、6/28

### 3) 皆でできる自然調査

今年はカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べます！

★今年度は対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

皆でできる自然調査は川崎市青少年科学館（通称:宙と緑の科学館）との協働事業として今年度から調査を行います。

調査用紙は配布を開始しました。

科学館ホームページからも読み取れます。調査団員と皆の調査参加の皆さんには後日用紙を郵送をいたします。

担当 岩田芳美

### 4) 連携調査

今年12月に予定しているシンポジウムには、川崎の生物100選と連携調査というプログラムを付けて、独立行政法人環境再生保全機構による地球環境基金助成金の交付を受けられることになりました。

川崎の生物100選は、かわさき自然調査団が30年間の調査から得られた知見に基づいて、川崎に生息する生物から100種を選んで皆さんにご紹介するもので、テーマは「まだまだ捨てたものではない川崎の自然」です。

日本の高度経済成長を牽引していた京浜工業地帯の中核都市であった川崎市は工業都市、公害の街というイメージが定着してしまいました。

また、東京に隣接していることから、住宅地開発の波にも洗われ続けています。

人口1人当たりの公園緑地面積は都市公園法の基準の半分もありません。最早、川崎には魅力ある自然は無くなったと誰もが考えているかも知れません。

しかし、身近な自然をじっくり観察していくと意外や意外、結構魅力ある生物(動植物)が生息していたり、毎年一時的ではあっても川崎で生活しているということが分かってきたのです。

このことを調査団からのメッセージとして発信するために、川崎に生息する魅力ある生物100種を選んで、「川崎の生物100選」として発表することにしました。

今までの調査によって記録してきた生物の中から選ぶだけのことですが、これがなかなか大変です。

皆さんにとって、「川崎にこんな生物が生息していたの！知らなかった！」と驚くような生物を選べるかどうか楽しみにしてください。

さて、もう一つは連携調査の試みです。

今までの私たちの調査は、基本的には行政や地権者の了解を得て実施していました。

ところが、最近は市民活動が活発になって、自然に関わる活動が市内各地で行われていますので、こうした市民活動団体とは可能な限り両者にメリットのある楽しい活動として進めたいと思いました。そのためには、どのような形で実施するのがいいのか、やってみて考えることにしました。

調査は川崎市植物誌を作成するという目的を持って、精力的に調査活動を行っている種子植物班、シダ植物班にお願いしました。

そして、川崎区では大師河原水辺の楽校(佐川麻理子さん)と大師河原(多摩川河口)地区の調査を、幸区ではさいわい夢ひろば友の会(江崎佳章さん)とさいわいふるさと公園の調査を、中原区はとどろき水辺の楽校(鈴木真知子さん)ととどろき水辺の楽校周辺地区の調査を、麻生区は早野聖地公園ボランティア(小泉清さん)と早野聖地公園地区の調査を行うことにしました。

今年度はあくまで可能性を探る活動として考えています。まず、4地区4団体との連携調査を試行し、無理をせずに、可能なら対象団体を増やしていけばいいだろうと考えています。

そして、5月30日には大師河原、6月7日には早野聖地公園、6月10日にはさいわい夢ひろばの連携調査を行いました。

連携調査ではそれぞれの地区で新たな発見がありました。また、今後、様々な形での情報交換が始まりそうです。

大師河原地区は多摩川河口という特殊な環境であるため、参加者は夢中で何時間も調査に没頭してしまいました。そして、神奈川県内唯一だろうと思われる植物を採集するなど大きな成果も得られました。

さいわい夢ひろば友の会との観察会を兼ねた調査は相互理解につながる楽しい活動でした。背景に高層ビルが入る環境ではありますが、神奈川県の絶滅危惧Ⅱ類の生物が生息していることも分かりました。同時にウシガエルが多数いることも分かりました。

早野聖地公園は改めて雑木林の中に入っただけのシダ植物調査を考えているほか、水辺についての調査も考えています。

5/30 連携調査 大師河原干潟館 (岩田、岩田、植物班 佐藤、吉留、シダ班 大貫、遠藤、片山、園田)

6/7 連携調査 早野聖地公園 (岩田、岩田、植物班 佐藤、シダ班 大貫) (下左写真)

6/10 連携調査 さいわい夢ひろば (岩田、岩田、植物班 吉田、佐藤、吉留) (下右写真)



また、6月は連携調査として実施することができませんでしたが、黒川はるひ野では、麻生区道路公園センターの協力を得て、黒川谷ツ公園、よこみね緑地の湿地でも植物調査を行いました。

ただ、黒川谷ツ公園では、はるひ野里山学校の村上博代表が、よこみね緑地では水辺のある里山を守る会の織野章会長が現地に出てくださり、調査活動に配慮してくださいました。

今後、水辺の調査も行いたい場所ですので、相互理解によって連携調査として実施させていただけると楽しくなるだろうと思います。

6/19 黒川谷ツ公園(岩田、岩田、植物班 佐藤、吉留、シダ班 大貫、園田、島津)

よこみね緑地(岩田、岩田、植物班 佐藤)

## 2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(6月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1~3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

#### ● 6/2 植物の観察

ガイド 植物班(吉田多美枝、谷口紀美代、吉留憲子)

参加者 42名

初夏になり咲き始めた草の花、木の花の観察を行った。

インド系の外国の方の参加があった。日本語は大丈夫かなと心配だった。

● 6/9 クモの観察

ガイド クモ班(成田和子)

参加者 30名

科学館前、県の木見本園入口付近、菖蒲池の周りでクモの観察を行った。

好天のため参加者が多く、しかも生田緑地観察会初参加の方が半数以上だった。

今回は珍しいクモには特に長く時間をさいて観察をした。

● 6/16 植物の観察

雨天中止

2) 里山の自然学校(6月)

6/2 里山の自然学校第9期第3回「プールのヤゴの救出作戦」

6/23 里山の自然学校第9期第4回「ホタル観察」

3) 2013年生田緑地ホタルの国のホタル観察会

会場 ビジターセンター2階(63席)

6/15(土) 18:00~19:00 参加者 95

6/22(土) 18:00~19:00 参加者 100

6/24(月) 立教大学現代社会学科のホタル観察会

6/25(火) 日本女子大付属高校生物部のホタル観察会



4) 講師派遣(6月)

6/3 下作延小学校 自然の観察 (植物 吉田多美枝、昆虫 中臣謙太郎)

3. 自然環境の保全に関する実践的事業

1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(6月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

6月は、ホタルの国の活動が忙しく、また連携調査もあり、谷戸の水辺の活動は1日のみでした。

(水田ビオトープ班)

6/18 トモエソウの札かけ、水路の補修など(2人)

2) 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会(6月)

里山倶楽部A

6/1(土) 里山倶楽部A<初夏の皆伐更新地区の植生管理>

里山倶楽部B

6/15(土) 里山倶楽部 B<中央地区北側エリアの雑木 A 林を観察し、生田緑地の自然について考えてみよう!>

3)生田緑地ホタルの国

6/12 ホタル警備打ち合わせ

6/12 ホタル・ランタンづくり、サイン設置

6/14~6/30 ホタルの国

ホタル・ガイド・ボランティア 21人、延べ 77人

月日	活動	ボランティア参加者	ホタル出現数	来園者等	
6/14(金)	<u>ホタル・ガイド・ボランティア 1日目</u>	岩田、岩田、大野、黒川、斉藤、佐久間、佐々木、鈴木、日野、前川(10人)	37	160	
6/15(土)	<u>ホタル・ガイド・ボランティア 2日目</u>	岩田、岩田、秋山、上田、佐々木、鈴木、辻、前川、水上(9人)	43	800	
6/16(日)	<u>ホタル・ガイド・ボランティア 3日目</u>	岩田、岩田、石浜、黒川、鈴木、辰沢、辻、前川(8人)	53	500	
6/19(水)	△ <u>ホタル・ガイド・ボランティア</u>	岩田、岩田(2人)	70		
6/21(金)	<u>ホタル・ガイド・ボランティア 4日目</u>	岩田、岩田、石浜、木坂、辻、日野、前川(7人)	38	40	雨
6/22(土)	<u>ホタル・ガイド・ボランティア 5日目</u>	岩田、岩田、木坂、斉藤、鈴木(潤)、鈴木(義)、日野(7人)	67	2500	
6/23(日)	<u>ホタル・ガイド・ボランティア 6日目</u>	岩田、斉藤、佐々木、古屋(理)、辰沢、日野、前川(7人)	89	1000	
6/24(月)	<u>立教大学現代社会学科のホタル観察会開催</u>	岩田、岩田(2人)	74	250	
6/25(火)	<u>日本女子大付属高校生物部のホタル観察会開催</u>	岩田、岩田(2人)	73	350	
6/28(金)	<u>ホタル・ガイド・ボランティア 7日目</u>	岩田、岩田、木坂、斎藤、鈴木(義)、日野、前川(7人)	36	500	

6/29(土)	ホタル・ガイド・ボラン ティア 8 日目	岩田、岩田、秋山、上田、石浜、木坂、倉本、佐々木、 下口、鈴木(潤)、辻、日野、前川 (13 人)	23	1300	
6/30(日)	ホタル・ガイド・ボラン ティア 9 日目	岩田、岩田、石浜、大野、斉藤、佐々木、鈴木(潤)、 辻、日野、前川 (10 人)	17	800	

#### 4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

##### 1) 生田緑地マネジメント会議自然会議

生田緑地ビジョン策定検討委員会がまとめた生田緑地ビジョンにおいて位置付けられた「協働のプラットフォーム」を具現化するものとして「生田緑地マネジメント会議」が3月に設立されました。

しかし、「協働のプラットフォーム」という新しい概念を実現することは容易ではありません。

行政と市民の間に相互理解、相互信頼が無ければなりません。多様な団体を参加させているのですから、参加者のもつ多様な能力、資源を活用できるような仕組み、役割分担が仕組まれる必要があります。また、6月26日に開催された生田緑地マネジメント会議の全体会における涌井アドバイザーからは「最終的に行政が責任をとるのは当たり前だが、決めるのは市民でなければならない。」というアドバイスがありました。縦割り行政の決定プロセスと協働のプラットフォームのシステムをどのように有機的に連動させるのか、難しい課題が残っています。

6/5 役員会議(岩田)

6/11 第2回自然会議(公園緑地課による園路整備計画について、その他) (岩田、岩田、大貴)

6/26 全体会(岩田、岩田)

#### 5. その他

6/3 鈴木緑政部長、佐藤生田緑地整備事務所長との会合(水田ビオトープ班 岩田)

6/11 東京新聞川崎支局飯田記者からホタルの国の取材に対応(水田ビオトープ班 岩田)

6/14 朝刊川崎版に記事「光の乱舞 ホタルの国 生田緑地」として掲載

////////// 7~8月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

7月

6日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-4回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)

7日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

14日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【昆虫】(昆虫班)

20日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-4回 「城山下谷戸・戸隠不動尊跡エリアの植生管理をしよう！」(里山倶楽部事務局)

21日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【里山の自然】(水田ビオトープ班)

28日(日)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第5回【夜の昆虫観察】

8月

4日(日)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第6回【案山子づくりと生物調査】

---

4日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

---

11日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【昆虫】(昆虫班)

---

17日(日)16:00~21:00 ◆里山の自然学校 第7回【夏の里山】

---

18日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【地層】(地学班)

---

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。  
■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

//////////《編集後記》//////////

6/2 故 林 長閑 先生の通夜には、私のほか、中臣理事、岩田、上西、成田が臨席しました。

6/3 故 林 長閑 先生の告別式には、私(岩田 事務局長)が出席しました。

私のボランティアスタートは第3次自然環境調査で行った土壌生物調査でした。林 長閑先生に直接ご指導を受けた4年間は今の活動のベースとなっています。

調査の合間に自然生態系の話から、進化?退化?の結果の個々の虫たちのフォルム、機能などの話までをされた先生の輝きは今も忘れません。

林先生の告別式の時に蛾類研究者の中島秀雄先生に川崎と林先生との関わりを尋ねられました。

甲虫幼虫の調査研究の時間を削られてまで林先生が素人集団を指導され、30年間も川崎市の自然環境調査に関わり続けて下さった理由は今となっては分かりませんが、ただ、大きく変わっていった川崎の自然の記録を残すことを急務と思われたのではと思います。

体調を崩され、多くの役職を降りられた後も調査団理事を続けて下さったことに感謝をしています。


心よりご冥福をお祈りいたします。

事務局



## A Whisper of Nature 第13-05号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》平成25年8月5日配信



雑 想 生田緑地ビジョンに描かれた協働のプラットフォームは実現できるのか?

2011年3月に生田緑地ビジョンが策定公表されました。

この中に基本的考え方として、「緑地の存在効用(保全)を前提とした利用効用(利用)との調整により、両者が好循環するしくみをつくる」とあります。

また、具体的な横断的管理運営のために協働のプラットフォームをつくることを謳い、2013年3月に協働のプラットフォームとして生田緑地マネジメント会議を設立しました。

そして翌4月以降、このマネジメント会議の全体会を1回、運営会議を2回、自然会議を4回開催しています。

5月22日に開催された第1回自然会議において公園緑地課から西口園路整備(岡本太郎美術館裏~クラブハウス)および、伝統工芸館~奥の池の自然探勝路の改修工事中の迂回路として一時的利用を前提としてつくった道を正式の園路にする工事の説明がありました。

この計画について検討するために第2回自然会議を6月11日に現地で開催しましたが、ここでは公園灯の設置が計画されていたことから、自然に対する配慮がされていない利用であるということが大きな問題とされました。

この現地での自然会議について、公園緑地課から「これは川崎市の政策決定会議で決定されたことなので、自然会議に対しては単なる工事予定の説明をしているだけである。」という趣旨の発言があったことから、7月12日に第3回の自然会議を開催して再度話し合うことになりました。

ところが、当日になって、当事者である公園緑地課は欠席し、生田緑地マネジメント会議の事務局を担当している生田緑地整備事務所が同課の代弁をする形となりました。

この会議では、「工事は8月には着工する。」、「5年前に決定されていた計画だ。」、「計画を撤回することはできない。」などという発言が同事務所からあり、当事者不在の議論は無駄の多いものとなりました。

そして、第4回自然会議が7月30日に開催されました。

しかし、公園緑地課は既に決定されていることだから着工する、多少の設計変更なら考えるという態度であり、一方、市民側の意見は多様で、中には岡本裁判でのことを前提にした反対意見、博物館施設の存在意義があるのかといった意見まであり、自然に対して手を入れる範囲について最大公約数的な解を見出すことは不可能と判断されました。

公園緑地課は、当該計画は生田緑地ビジョンの実現のためだと説明されましたが、生田緑地ビジョンの基本的な考え方である自然の保全を前提としての調整はなされておらず、むしろ生田緑地ビジョンに反する計画であることは明らかです。

また、バリアフリー園路であることを強調していますが、縦断勾配8%が300mも続く園路はバリアフリーとは言えないと思います。

そこで、自然会議としては、当該計画についての工事推進の立場と自然保全の立場の両方の意見を比較できるような両論併記の意見書を作成し、提出することを決めました。

生田緑地ビジョン策定検討委員会は、涌井史郎 東京都市大学教授を委員長に、2009年11月から2011年1月まで全7回開催され、策定されたものです。

前述のように、このビジョンの基本的考え方として自然の保全を前提とした調整を掲げています。

また、2003年度に開催された生田緑地整備構想策定委員会の市民委員募集に際しては「生田緑地の自然生態系を次代に引き継ぐために」という呼びかけを行っています。

生田緑地の自然の大切さは充分認識していたはずですが、

しかし、個々の整備計画の立案、推進にあたって、生田緑地の生物多様性を考えているとは、とても思えません。

協働のプラットフォームにおいて自然の保全と利用のバランスという生田緑地ビジョンの基本である調整はできるのでしょうか。

## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査 (7月)

7月は以下の調査を行いました。

#### ●植物班

7/3 標本整理、保管、同定作業

7/10 標本整理、保管、同定作業

7/17 標本整理、保管、同定作業

7/24 標本整理、保管、同定作業



7/31 標本整理、保管、同定作業

麻生区調査 7/21

多摩区調査 7/3、7/4、7/5、7/9、7/10、7/19、7/20、7/23

宮前区調査 7/9、7/20

幸区調査 7/9(古川小学校調査)

同定作業 7/1、7/2、7/12、7/15、7/18、7/19、7/20、7/25、7/27、7/28、7/29

・資料収集グループ調査

7/5 幸区、中原区調査

●シダ植物班

7/5 東高根森林公園調査

7/12 緑ヶ丘霊園調査

7/20、21 勉強会

7/26 標本整理、保管、同定作業

●野鳥班

7/9 生田緑地調査

7/11 黒川調査

7/21 大師河原調査

7/23 黒川調査

●キノコ班

7/11 生田緑地調査と同定作業

7/25 生田緑地調査と同定作業

●昆虫班

蛾類研究グループ

7/6 電子顕微鏡の操作学習

7/8 データベース作成作業、生田緑地調査

7/12 生田緑地調査

7/16 生田緑地調査

7/25 データベース作成作業

●水辺調査班

[7/9\(幸区調査古川小学校調査\)](#)

[7/17\(幸区さいわいふるさと公園調査\)](#)



★★新班“水辺調査班”を設置し、参加者を募集します！★★

第8次調査を進めるために水辺で出会う全生物を対象として調査する班を新たに立ち上げました。つまり、調査対象ではなく、水辺という調査場所を特定して、調査を行うための班です。

例えば、植物班に所属しながら、水草や水辺の植物を採集するために水辺調査班にも参加することができます。

水辺に生息する生物を調査する時の負担を軽減することを目的としていますので、活動は 1～2年程度、第8次調査が終了したら解散する予定です。

・調査地 市内全域

・調査分野 水生生物、植物、コケ、貝類、両生類、爬虫類等 可能な範囲で水辺で出会う全生物を対象にします。

・調査期間 7月～10月位を予定

★調査参加希望者は連絡をお願いいたします。

2) [環境省モニタリングサイト1000里地調査 生田緑地調査](#) (7月)

モニ 1000 里地調査に参加を希望される人を募集しています。

第3期のモニタリングサイト 1000 里地調査が今年度から始まっています。興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ 1000 里地調査 生田緑地連絡担当 岩田臣生

●植物相調査

7/17 モニ 1000 植物相調査(植物班/ 吉留、武久、林、佐崎、吉田、谷口、渡部、矢口、佐藤(登)、佐藤(ミ)、白澤)

●中大型哺乳類調査(水田ビオトープ班 岩田臣生)

7/1 カメラ設置 O、T、B

7/13 哺乳類調査講習会(at.横浜自然観察の森)

7/31カメラ回収 O、T、B

●水環境調査

[7/22 モニ 1000 生田緑地 水環境調査](#)(水田ビオトープ班 岩田臣生)

### 3) 皆でできる自然調査

今年はカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べています！

★今年度は対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

川崎市青少年科学館（通称:宙と緑の科学館）との協働事業として進行をしています。

調査用紙は配布していますが、科学館ホームページからも読み取れます。

調査団員、皆でできる調査参加の皆さんからは幾つかの種の生息確認情報が届き始めました。

★今年も自宅近辺と生田緑地でセミ調査を行っています。

生田緑地のヒグラシ脱殻確認の 7/6。ニイニイゼミ初鳴確認 7/7。岩田の観察地点でははミンミンもアブラも7月後半には鳴いていました。

7/22には宮前区役所の隣接地でクマゼミが鳴いていましたよ。(8/2には生田緑地でもクマゼミが鳴きました。)

担当 岩田芳美

### 4) 連携調査

[7/17 連携調査 さいわい夢ひろば \(岩田、岩田\)](#)

さいわい夢ひろばの池のウシガエル駆除を江崎代表夫妻と4人で行いました。

## 2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(7月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1~3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

#### ● 7/7 植物の観察

ガイド 植物班(吉田多美枝、佐藤登喜子、吉留憲子)

参加者 46名

花の少ない季節ですが、花をつけている植物、実のついている植物の観察をしました。

梅雨明けの良く晴れた1日だったが皆さん熱心に観察し、質問も多くありました。

#### ● 7/14 昆虫の観察

ガイド 昆虫班(山本晃、中臣謙太郎、成田和子)、水田ビオトープ班(岩田臣生)

参加者 44名

チョウ、トンボ、甲虫、ハチなどの昆虫とクモなど合計34種を観察しました。

ヤブヤンマが観察会で初めて観察でき、しかも参加者全員がしっかりと観察できた大喜びでした。

晴れて高温の中、こども16人声楽しい声が響く観察会となりました。

ヤブヤンマ、シギゾウムシ、ヤハズカミギリ、マルウンカなども観察されました。



● 7/21 里山の自然の観察

ガイド 水田ビオトープ班(岩田臣生)

参加者 25名

観察できた生物を里山のビンゴ表に書き込んでいき、最後に何種類観察できたかを数えました。50種類以上確認できました。ハグロトンボも観察できました。

生物多様性について考えるきっかけとなるように、生田緑地における在来の生物、外来の生物を区別しながら、夏の里山の生物との出会いを楽しんで戴きました。



2) 里山の自然学校(7月)

[7/28 里山の自然学校第9期第5回「夜の昆虫観察」](#)

3) 講師派遣(7月)

7/10 上丸子小学校 自然の観察 (昆虫 中臣謙太郎)

7/12 上丸子小学校 自然の観察 (植物 吉田多美枝、昆虫 中臣謙太郎)

4) シンポジウム《市民が考える川崎の自然と生物多様性》(12月)

期日 2013年12月1日

会場 川崎市青少年科学館

協力 川崎市青少年科学館

助成 地球環境基金助成金

第1部 10～12時 《かわさき自然調査団が選んだ川崎の生物100選》  
～まだまだ捨てたものではない川崎の自然～

第2部 13～16時 《市民が見つめる生物多様性》

基調講演1 大場信義(大場蛭研究所)

地域固有な自然観を育ててきたホタルが棲めるような里地の保全と復元の意義

基調講演2 岸 一弘(茅ヶ崎野外自然史博物館)

里山の生物多様性は保全されているのかー湘南地域を例に

基調講演3 佐久間淳子(環境ジャーナリスト)

未定

基調講演4 倉本 宣(明治大学農学部教授)

私たちと生田緑地の自然

パネルディスカッション コーディネーター 三島次郎(かわさき自然調査団団長)

5) パネル展示《川崎の生物100選》(11月)

期日 2013年11月2日(土)～12月1日(日)

会場 川崎市青少年科学館、生田緑地ビジターセンター

協力 川崎市青少年科学館、生田緑地ビジターセンター

助成 地球環境基金助成金

川崎市青少年科学館が専門家と市民との協働によって1983年に開始した川崎市自然環境調査は既に30年間継続されてきました。

その間、川崎市青少年科学館市民自然調査団と呼称された協働による調査団は、かわさき自然調査団、特定非営利活動法人かわさき自然調査団と組織形態を変えましたが、当初の目的であった「市民の力で川崎の自然を記録する」という活動を継続しています。

この調査に実際に関わってきた団員が30年にわたる活動を振り返り、川崎には自然は残っていないと多くの市民、行政の方たちに、川崎の自然もまだまだ捨てたものではないということに気が付いていただきたいと思います、川崎に生息する生物を100種選んでご紹介することにしました。ですから、この100選は川崎の生物相を示すものではありません。

まずは、地元 川崎の自然のファンになっていただきたいと思います。

### 3. 自然環境の保全に関する実践的事業

#### 1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(7月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

6月は、ホテルの国の活動が忙しく、また連携調査もあり、谷戸の水辺の活動は1日のみでした。

(水田ビオトープ班)

7/1 カナムグラ駆除(1人)

7/3 希少植物の保護(2人)

7/16 田圃の施肥、アメリカザリガニ駆除(2人)

7/22 カナムグラ駆除、アメリカザリガニ駆除(3人)

7/23 下の田圃の田圃雑草の管理、カナムグラ、アメリカザリガニ駆除(2人)

7/24 湿地の水辺管理、カナムグラ駆除(3人)

7/25 湿地の水辺管理と田圃雑草の管理、カナムグラ駆除(3人)

7/30 湿地の水辺管理と田圃雑草の管理、カナムグラ駆除(2人)

#### 2) 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会(7月)

里山倶楽部A

7/6(土) 里山倶楽部A<初夏の皆伐更新地区の植生管理>

里山倶楽部B

7/20(土) 里山倶楽部B<城山下谷戸地区をモニタリングして、夏の植生管理を体験してみよう!>

里山倶楽部は8月はお休みです。

9月の里山倶楽部Bは久しぶりに勉強会を行います。期日は同じ第3土曜日ですが、時間が16~18時となりますので注意してください。

勉強会「外来樹木の大きさをどのようにとらえるべきか」

講師 倉本 宣 自然会議会長・明治大学教授

日時 9月21日 16~18時 (時間の変更があるかも知れませんがご注意ください。)

場所 生田緑地ビジターセンター2階

要事前申込

### 4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

#### 1) 生田緑地マネジメント会議自然会議(7月)

7/10(水) 生田緑地マネジメント会議自然会議役員会 (自然会議副会長 岩田臣生)

7/12(金) 第3回生田緑地マネジメント会議自然会議 (自然会議副会長 岩田臣生、調査団出席者 シダ植物班 大貫はるみ、田村成美、昆虫班 雛倉正人、事務局 岩田芳美)

7/30(火) 第4回生田緑地マネジメント会議自然会議 (自然会議副会長 岩田臣生、調査団出席者 シダ植物班 大貫はるみ、地学班 上西登志子、きのこ班 岡 英雄、事務局 岩田芳美)

2) 生田緑地の自然に関することについての現地協議(7月)

7/22(月) 生田緑地の枯損木伐採についての現地立会い

7/30(火) 生田緑地の枯損木伐採についての現地立会い

5. その他(7月)

1) 班長会議

7/31 13時30分～15時 科学館学習室2

出席 シダ植物班(大貫)、植物班(吉田)、きのこ班(岡)、野鳥班(佐野)、昆虫班(雛倉)、水田ビオトープ班(岩田)、事務局(岩田)

自然環境調査、生田緑地観察会の進捗状況などの確認、12月1日のシンポジウムに向けての日程などの話し合いを行いました。

2) 東京新聞の記事

7/16 東京新聞川崎版紙面に故林長閑理事が川崎市の自然環境調査の礎を築いた人として取り上げて戴きました。

////////// 8～9月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

8月

-----  
4日(日)10:00～15:00 ◆里山の自然学校 第6回【案山子づくりと生物調査】

-----  
4日(日)10:00～12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
11日(日)10:00～12:00 ◆生田緑地観察会【昆虫】(昆虫班)

-----  
17日(日)16:00～21:00 ◆里山の自然学校 第7回【夏の里山】

-----  
18日(日)10:00～12:00 ◆生田緑地観察会【地層】(地学班)

9月

-----  
1日(日)10:00～12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
7日(土)10:00～15:00 ■里山倶楽部A 第A-5回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)

-----  
8日(日)10:00～12:00 ◆生田緑地観察会【土壌動物】(水田ビオトープ班)

-----  
15日(日)10:00～12:00 ◆生田緑地観察会【きのこ】(キノコ班)

-----  
21日(土)10:00～13:00 ■里山倶楽部B 第B-5回 勉強会 「外来樹木の大木をどのようにとらえるべきか」(里山倶楽部事務局)

-----  
28日(日)10:00～15:00 ◆里山の自然学校 第5回【夜の昆虫観察】

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。

■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

//////////《編集後記》//////////

今年度は、協働のプラットフォームとして設立された生田緑地マネジメント会議に振り回されています。行政の計画説明の場だというのでは協働のプラットフォームとは言えないでしょう。また、生田緑地ビジョンの具現化とも思われません。

協働のプラットフォームをマネジメントする部署は、協働について、協働のプラットフォームについて理解していると思いますが、生田緑地ビジョンの具現化のための庁内調整も行わなければならないということまで理解しているのでしょうか。

まさか、煩い市民を黙らせて、淡々と業務を遂行できるようにすればいいと考えているのではないと思いますが、疲れることが多すぎます。

7月12日、30日と生田緑地マネジメント会議自然会議 に各班の班長が出席をしました。もはや決まった事として行政計画を押し付けるための会議に、疲れ、腹立たしさのみが残ったことと思います。

岡本美術館裁判の時に私たちが原告になってまでも守ろうとした生田緑地の自然を今後も守るために、不愉快極まりない今回のような会議の出席をお願いすることは気が重いのですが、これからも物言えぬ自然の代弁者としてお力添えを下さい。

「環境先進都市」とうたう川崎市ですが、自然環境はないがしろにされがちです。

辛うじて残った多摩丘陵東端の自然(生田緑地)を次世代に引き継ぐために宜しく願いいたします。

5月に林先生逝去をお伝えしたばかりですが、7月末になり地学班の藤澤正一さんご逝去の報が届きました。地学班には市民の力で川崎の自然を調べ記録するという目的の元に魅力的な男性陣が大勢所属されていました。

藤澤さんもそのお一人で、班内では関東ローム層火山灰の分析を専門にされていました。

8月開催の生田緑地観察会(地層)でも藤澤さんを偲びながら調査結果を活用させて戴く予定です。

心よりご冥福をお祈りいたします。

事務局



## A Whisper of Nature 第13-06号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》 平成25年9月1日配信



### 雑 想 モニタリングサイト 1000 里地調査で見えてきた生田緑地の植物相

先日、環境省自然環境局生物多様性センターから「平成24年度モニタリングサイト1000里地調査報告書」が送られてきました。

この報告書の末尾に参考資料として掲載された付表は大変興味深いものでした。

今回は、その中から付表2を見てみたいと思います。

当調査団がモニタリングサイト1000里地調査に参加することになったのは第2期調査からです。

2007年12月の第10回市民部会に、横須賀自然人文博物館の大場信義博士を講師に迎えて、「ホテルの生息環境を考える」という勉強会を行い、生田緑地のスジグロボタルの生息環境をはじめ、水田ビオトープ班の活動していた地区、特に谷戸の水辺などをご案内した時に、モニ1000に参加しませんかというお誘いをいただいたの



が切っ掛けでした。

しかし、生田緑地は、東京の新宿から小田急線で 20 分という位置にあり、140 万都市である川崎市の市街地の中にあります。

都市計画緑地生田緑地の面積は 180ha ですが、その中に、既に閉園になった向ヶ丘遊園地、生田緑地国際ゴルフ場、住宅地などが含まれ、市民が公園として利用できる中央地区は 40ha 程です。

その中央地区の中には、日本民家園、青少年科学館、岡本太郎美術館の 3 つの博物館が設置されていたから、多摩丘陵の在来の自然を残し、生物の生息環境となっている範囲は極めて狭いものと考えていました。

この生田緑地が、「里山」として扱ってもらえるのだろうか、モニタリングサイト 1000 里地調査の対象地として登録してもらえるのだろうかという疑問、馬鹿にされて相手にされないのではないかと不安がありました。

でも、大場先生のご紹介ということなので、申請手続きをしましたところ、調査に参加させてもらえることになりました。

即ち井、2008 年 6 月に、モニ 1000 の一般サイトとして生田緑地が正式に登録され、植物相調査、鳥類調査、中大型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査を当調査団が担当することになりました。

実際の調査は 2008 年 9 月に開始し、2013 年 3 月で第 2 期調査(5 年間)を終え、2013 年度から第 3 期調査に入っています。

一般サイト生田緑地の植物相調査は植物班が全員で参加して、毎月 1 回、一定のコースを歩いて、蕾、花、実を観察した植物を記録するという調査です。

但し、現在は、木本、シダ植物、イネ科、カヤツリグサ科は、残念ながら、対象にしていません。これが全サイトが調査している範囲で、これを基本対象種群と標記しています。

当該付表 2-2 は各サイト別に記録された在来植物の種数(基本対象種群)を表してありましたが、82 サイトの中で生田緑地は第 7 番目に多いサイトになっていたのです。

2011 年の値では、平尾台(福岡県北九州市小倉南区)275、宮野入谷戸(東京都武蔵村山市)252、ハローウッズ(栃木県茂木町)208、ろうきん森の学校・広島(広島県北広島町)204、穂谷の里山(大阪府枚方市)198、弘前市民の森座頭石地区(青森県弘前市)197、生田緑地(神奈川県川崎市)196 でした。

なお、生田緑地の 2010 年の値は 200 でした。

実は、生田緑地は下の方に位置しているものと思っていました。

それがトップ 10 に入っていたのです。驚きました。

大都会の都市公園なのに、生田緑地は結構、凄いと思いませんか！

鳥類調査は野鳥班が、中大型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査は水田ビオトープ班が担当しています。

モニ 1000 調査に興味を持たれた方は、是非、連絡担当にお問い合わせください。

調査継続のためには引き継いでいく人が必要なのです。

モニ 1000 生田緑地連絡担当 岩田臣生

## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査 (8 月)

8月は以下の調査を行いました。  
夏休みを取っていた班もあります。

### ●植物班

8/7 標本整理、保管、同定作業  
8/14 標本整理、保管、同定作業  
8/21 標本整理、保管、同定作業  
8/28 標本整理、保管、同定作業

麻生区調査 8/5、8/13、8/17、8/23、8/26

多摩区調査 8/2、8/4、8/8、8/9、8/19、8/24、8/25、8/30

宮前区調査 8/2、8/15、8/22、8/25

高津区調査 8/19

同定作業 8/1、8/2、8/5、8/6、8/8、8/9、8/10、8/12、8/13、8/15、8/16、8/17、8/23、8/24、8/25、8/26  
(班長自宅作業)

### ●シダ植物班

8/30 標本整理、保管、同定作業

### ●野鳥班

8/4 生田緑地ゴルフ場調査  
8/13 生田緑地調査  
8/15 黒川調査  
8/24 大師河原調査  
8/27 黒川調査

### ●キノコ班

/11 生田緑地調査と同定作業  
/25 生田緑地調査と同定作業

### ●昆虫班

蛾類研究グループ

8/1 電子顕微鏡による形体撮影と生田緑地調査  
8/3 データベース作成作業、生田緑地調査  
8/8 データベース作成作業、生田緑地調査  
8/12 微小蛾の菅生緑地調査  
8/14 微小蛾の東高根調査

- 8/15 電子顕微鏡による形体撮影と生田緑地調査
- 8/22 電子顕微鏡による形体撮影と生田緑地調査
- 8/24 微小蛾の菅生緑地調査
- 8/26 微小蛾の生田緑地調査
- 8/29 データベース作成作業

#### その他の昆虫

収蔵庫燻蒸に向けての標本整理

8/7日、8/30

#### ●水辺調査班

★★新班“水辺調査班”を設置し、参加者を募集します！★★

第8次調査を進めるために水辺で出会える全生物を対象として調査する班を新たに立ち上げました。つまり、調査対象ではなく、水辺という調査場所を特定して、調査を行うための班です。

例えば、植物班に所属しながら、水草や水辺の植物を採集するために水辺調査班にも参加することができます。

水辺に生息する生物を調査する時の負担を軽減することを目的としていますので、活動は 1~2年程度、第8次調査が終了したら解散する予定です。

・調査地 市内全域

・調査分野 水生生物、植物、コケ、貝類、両生類、爬虫類等 可能な範囲で水辺で出会える全生物を対象にします。

・調査期間 7月~10月位を予定

★調査参加希望者は連絡をお願いいたします。

#### 2) [環境省モニタリングサイト1000里地調査 生田緑地調査](#) (8月)

モニ 1000 里地調査に参加を希望される人を募集しています。

第3期のモニタリングサイト 1000 里地調査が今年度から始まっています。興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ 1000 里地調査 生田緑地連絡担当 岩田臣生

#### ●植物相調査

8/21 モニ 1000 植物相調査(植物班/ 吉留、武久、林、佐崎、吉田、谷口、渡部、矢口、佐藤(登)、佐藤(三)、白澤)

#### ●中大型哺乳類調査(水田ビオトープ班 岩田臣生)

8/5(月) モニ 1000 生田緑地哺乳類調査カメラ設置

#### ●水環境調査(水田ビオトープ班 岩田臣生)

8/23 モニ 1000 生田緑地水環境調査

### 3) 皆でできる自然調査

今年はカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べています！

★今年度は対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

川崎市青少年科学館（通称:宙と緑の科学館）との協働事業として進行をしています。

調査用紙は配布していますが、科学館ホームページからも読み取れます。

★調査用紙を配布した複数の方からニホントカゲの生息確認情報を戴きました。カナヘビよりもニホントカゲを見かける機会が多いのでしょうか。

コウモリを目撃情報も届いています。

調査参加者でまだコウモリ未確認の方は日没後の30分間くらいが見つけやすいですよ。この時期ならば午後6時20分頃に空を見上げてください。

ただし、車、自転車、歩行者には十分に注意をしてください。

★今年も自宅近辺と生田緑地でセミ調査を行っています。

生田緑地では8月13日にツクツクボウシが鳴きだしました。

自宅付近では8月グシユンになってからでした。

担当 岩田芳美

## 2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(8月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1~3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

#### ● 8/4 植物の観察

ガイド 植物班(吉田多美枝、佐藤登喜子、谷口紀美代)

参加者 41名

盛夏の観察会を意識して、菖蒲池から野鳥の森と木陰のコースを設定し、木の実や木の葉の形を観察をしました。

厳しい暑さとなりましたが熱心な41人の参加者にガイドの説明にも力が入りました。

#### ● 8/11 昆虫の観察

ガイド 昆虫班(雛倉正人)

参加者 54名

雑木林、草地、水辺の盛夏に見られる昆虫の観察。 セミやドリガの幼虫や湧水が流れる生田緑地の環境だ

からこそ生き物にも出会えました。

例年よりも季節の進行が早く、カマキリなどは一部が成虫になっていた。

子どもの参加者(25名)が多く、熱中症が心配されるような高温のため、最後の30分程は科学館内の展示見て戴いたり、都市の亜熱帯化に伴う北上種の昆虫などの話をしました。

### ● 8/18 地層の観察

ガイド 地学班(菊地みどり、上西登志子)

参加者 40名

枳形山の地層の観察。上総層群ーおし沼砂礫層ー関東ローム層を順に観察したあと、枳形山広場で休憩。民家園に隣接する不整合面の露頭を観察後に解散しました。

気温がかなり高く、熱中症を心配しましたが全員無事に楽しく観察会を終えることができ一安心。

小中学生が多く参加。積極的に観察し、質問も多く観察を深めることができたと思われました。



### 2) 里山の自然学校(8月)

◎8/4(日) 里山の自然学校第9期第6回「案山子づくりと生物調査」

◎8/17(土) 里山の自然学校第9期第7回「夏の里山」

### 3) 講師派遣(8月)

学校が夏休み中のため、今月はありませんでした。

### 4) シンポジウム《市民が考える川崎の自然と生物多様性》(12月)

かわさき自然調査団の自然調査活動は1983年に始まり、30年もの長期にわたって、行政と専門家と市民による協働として継続されてきました。

この調査によって得られた知見をもとに、川崎の自然もまだまだ捨てたものではないというメッセージを発信したいと考えて「川崎の生物100選」を選んでいきます。

この「川崎の生物100選」を見て、大都市川崎にも案外魅力的な野生生物が生息しているということを感じていただきたいと思います。

これについてはポスター展示、シンポジウム第1部、そして報告書での発信を計画しています。

また、昨今、話題になっているものの、なかなか理解できないという人も多いと思われる生物多様性について、4人の講師による講演とそれをベースにしたパネルディスカッションをシンポジウム第2部で行います。

と言っても、直接的に生物多様性についてお話いただくのではなく、生物多様性に関連して、先生方が今一番関心を持っていることを話していただくことにしました。

是非、皆さんも一緒に議論に参加していただきたいと思います。

なお、参加費は無料ですが、会場準備の都合から事前に電子メールでの参加申込をいただきたいと考えていますので、ご協力の程、宜しく、お願いします。

また、ご不明のことなどありましたら、事務局( [sympo@konrac.org](mailto:sympo@konrac.org) )までお問い合わせください。

ポスターは [こちら](#) でダウンロードできます。(PDF 85KB)

期日 2013年12月1日(日)

会場 川崎市青少年科学館

協力 川崎市青少年科学館

助成 地球環境基金助成金

第1部 10～12時 《川崎の生物100選》

～まだまだ捨てたものではない川崎の自然～

第2部 13～16時 《市民が見つめる生物多様性》

基調講演1 大場信義(大場蛭研究所)

地域固有な自然観を育ててきたホテルが棲めるような里地の保全と復元の意義

基調講演2 岸 一弘(茅ヶ崎野外自然史博物館)

里山の生物多様性は保全されているのかー湘南地域を例に

基調講演3 佐久間淳子(環境ジャーナリスト)

未定

基調講演4 倉本 宣(明治大学農学部教授)

私たちと生田緑地の自然

パネルディスカッション コーディネーター 三島次郎(かわさき自然調査団団長)

5) パネル展示《川崎の生物100選》(11月)

期日 2013年11月15日(金)～12月14日(土)

会場 川崎市青少年科学館、生田緑地ビジターセンター

協力 川崎市青少年科学館、生田緑地ビジターセンター

助成 地球環境基金助成金

川崎市青少年科学館が専門家と市民との協働によって1983年に開始した川崎市自然環境調査は既に30年間継続されてきました。

その間、川崎市青少年科学館市民自然調査団と呼称された協働による調査団は、かわさき自然調査団、特定非営利活動法人かわさき自然調査団と組織形態を変えましたが、当初の目的であった「市民の力で川崎の自然を記録する」という活動を継続しています。

この調査に実際に関わってきた団員が 30 年にわたる活動を振り返り、川崎には自然は残っていないと思っている多くの市民、行政の方たちに、川崎の自然もまだまだ捨てたものではないということに気が付いていただきたいと思います、川崎に生息する生物を 100 種選んでご紹介することにしました。ですから、この 100 選は川崎の生物相を示すものではありません。

まずは、地元 川崎の自然のファンになっていただきたいと思います。

### 3. 自然環境の保全に関する実践的事業

#### 1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(8 月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

8月の谷戸は水不足のため、水辺の生物にとっては厳しい季節でした。

一方、夏草の勢いは凄まじく、猛暑の中、カナムグラの駆除を行いました。

(水田ビオトープ班)

8/2 ヨシ原の池のヨシ刈り、カナムグラ駆除(4人)

8/13 水辺と田圃雑草の管理、アズマネザサ採取(1人)

8/23 モニ 1000 水環境調査、カナムグラ駆除(2人)

8/27 カナムグラ駆除(2人)

8/29 カナムグラ駆除(2人)

#### 2) 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会(9 月)

8月は里山倶楽部はお休みにしました。

9月は7日(土)に里山倶楽部Aを21日(土)に里山倶楽部Bを開催します。

里山倶楽部Bは、次のような勉強会を行いますので、生田緑地以外のフィールドで活動している皆さんも遠慮なく、ご参加ください。

勉強会「外来樹木の大きさをどのようにとらえるべきか」

講師 倉本 宣 自然会議会長・明治大学教授

日時 9月21日 16~18時 (時間の変更があるかも知れませんがご注意ください。)

場所 生田緑地ビジターセンター2階

要事前申込(氏名と連絡先を事務局までお知らせください) [ikuta@konrac.org](mailto:ikuta@konrac.org)

**9月の里山倶楽部のご案内**  
**勉強会**  
**外来樹木の大木を**  
**どのようにとらえるべきか**

講師 倉本 宣 明治大学教授・自然会議会長  
 日時 9月21日(土) 16~18時  
 会場 生田緑地ビジターセンター2階

市民部会の活動<資料>里山倶楽部は川崎市との協働として実施しています。参加費は無料ですが、参加希望者は9/20までに、市民部会事務局へ申し込んでください。

市民部会事務局  
 (かわさき自然遺産館)  
 090-2171-7214  
 ikuta@konrac.org (登録専用)

#### 4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

##### 1) 生田緑地マネジメント会議自然会議(8月)

第1回自然会議(5/22)において川崎市緑政部公園緑地課から、岡本太郎美術館と新クラブハウスを結ぶ園路整備を今年度工事として実施するとの一方的な説明がありました。

このため、第2回(6/11)、第3回(7/12)、第4回(7/30)とこの案件について討議してきました。

しかし、生田緑地ビジョンにうたわれた生田緑地の自然の保全を前提としながらという部分が当該計画においては配慮されておらず、議論は解を見出すことができないまま着工に向けての準備が進められています。

この事態は自然会議のあり方に関わる重要なことであることから、自然会議として意見書を提出することを決めて、その内容の検討を行っていました。

#### ////////// 9~10月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

9月

1日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

4日(水)13:00~15:00 ●班長会議 川崎の生物100選について

7日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-5回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)

8日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【土壌動物】(水田ビオトープ班)

15日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【きのこ】(キノコ班)

21日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-5回 勉強会 「外来樹木の大木をどのようにとらえるべきか」(里山倶楽部事務局)

10月

5日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-6回

6日(日)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第8回【稻刈り】

6日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)



13 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【クモ】(クモ班)

14 日(月)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第 9 回【脱穀】

19 日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-6 回 野鳥の森の植生管理

20 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【里山の自然】(水田ビオトープ班)

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。

■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

//////////《編集後記》//////////

生田緑地の谷戸の湧水は非常に少なくなっています。

こんなに酷い事態は初めてかも知れません。

「ヒデリノトキハナミダヨナガシ」?

水辺の生物は生き残れるでしょうか。

## A Whisper of Nature 第 13-07 号

特定非営利活動法人がわさき自然調査団《メールマガジン版回報》平成 25 年 10 月 3 日配信

### 雑 想 モニタリングサイト 1000 里地調査

先月、環境省自然環境局生物多様性センターから送られてきた「平成 24 年度モニタリングサイト 1000 里地調査報告書」の付表のうち在来植物の種数について生田緑地が 82 サイト中 7 番目に多いサイトになっていたことを書きました。

今回は別の幾つかのデータを示したいと思います。

一つは ガビチョウです。

2011 年調査の外来鳥類の個体数が掲載されていました。

データが掲載されているサイトは 71 サイトで、そのうちガビチョウを記録しているサイトは 15 サイト、調査 1 回あたりの平均合計記録個体数は宮野入(東京)12.00、生田緑地 6.33、久住(大分)6.00、中村川(神奈川)5.00、たちばな(神奈川)4.67、多摩(東京)3.33、犬目(東京)2.83、奈良川(神奈川)2.67 と続き、東京、神奈川のサイトで多く記録され、生田緑地の多さも示されています。

次はハクビシンです。

2011 年の撮影日あたりの撮影個体数は、データ掲載サイト 30 のうち、生田緑地だけが桁違いに多く、0.252 でした。

中大型哺乳類のうち在来種の種数と撮影頻度が掲載されています。

2011 年の記録の掲載サイトは 39 あります。

種数を見ると、生田緑地は厚木(神奈川)、牛久(茨城)と並んで最少の 2 種でした。また、最も多かったのは、中池

見(福井)、木下沢(東京)の10種でした。

撮影頻度で見ると、生田緑地は0.296で、穂谷(大阪)、久住(大分)、天狗森(山形)、海上(愛知)、上林(愛媛)、牛久(茨城)、唐沢川(埼玉)、長池(東京)、木下沢(東京)、横浜(神奈川)、原山(岐阜)、関(岐阜)、浜北(静岡)、犬山(愛知)、西山(京都)、西宮(兵庫)、北広島(広島)、山田(福岡)、柿原(熊本)などより多く、20位と丁度中間でした。

中大型哺乳類のうち指標種として キツネ、アナグマ、テン、イタチ類、ノウサギを設定していますが、生田緑地ではアナグマのみが記録されました。

2011年のゲンジボタルの記録は15サイトが掲載されていますが、最も多いのが柿原(熊本)455、2位がハローウツズ(栃木)216、続いて西宮(兵庫)142、松代城(新潟)132、北広島(広島)121、横浜(神奈川)106、上林(愛媛)103、座間(神奈川)97、生田緑地は9番目で82でした。

モ二 1000 生田緑地連絡担当 岩田臣生

## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査 (9月)

9月は以下の調査を行いました

9月1日午後からの収蔵庫燻蒸のために第1週は科学館での活動を取りやめました。

#### ●植物班

9/9 標本整理、保管、同定作業

9/11 標本整理、保管、同定作業

9/18 標本整理、保管、同定作業

9/25 標本整理、保管、同定作業

麻生区調査 9/9、9/21、9/26

多摩区調査 9/3、9/5、9/6、9/7、9/9、9/17、9/19、9/23、9/27、9/28

宮前区調査 9/4、9/6、9/10、9/11

高津区調査 8/19

中原区調査 9/27、9/30

幸区調査 9/27

川崎区調査 9/13、9/27

#### ★植物資料収集グループ

9/19 栗木山王山緑地下見

9/26 栗木山王山緑地調査

● シダ植物班

9/6 早野調査

9/13 標本整理、保管、同定作業

9/20 東生田緑地調査

● 野鳥班

9/10 生田緑地調査

9/12 黒川調査

9/21 大師河原調査

9/24 黒川調査

● キノコ班

9/12 生田緑地調査と同定作業

9/26 生田緑地調査と同定作業

● 地学班

9/18 現生花粉の同定作業

● 昆虫班

蛾類研究グループ

9/6 小蛾類の菅生緑地調査

9/12 電子顕微鏡による形体撮影と生田緑地調査

9/17 生田緑地調査

9/19 データベース作成作業、生田緑地調査

9/24 微小蛾の菅生緑地調査

9/26 データベース作成作業

9/28 生田緑地調査

● 水辺調査班

[9/20\(金\) 多摩川水系二ヶ領用水 多摩区登戸稲生橋付近の水辺調査](#)



9/21(土) 鶴見川水系有馬川      宮前区有馬、東有馬

9/23(月) 多摩川水系三沢川      麻生区黒川



9/23(月) 鶴見川水系矢上川      宮前区宮崎1丁目



●他団体との連携調査

9/6(金) 連携調査 早野聖地公園シダ植物調査(シダ植物班ほか)



9/27(金) 連携調査 大師河原調査(大師河原水辺の楽校)の植物調査(植物班ほか)



9/27(金) 連携調査 さいわい夢ひろばの植物調査(植物班ほか)



9/30(月) 連携調査 とどろき水辺の楽校(多摩川中流域)の植物調査(植物班ほか)



## 2) [環境省モニタリングサイト1000里地調査 生田緑地調査](#) (9月)

モニ 1000 里地調査に参加を希望される人を募集しています。

第3期のモニタリングサイト 1000 里地調査が今年度から始まっています。興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ 1000 里地調査 生田緑地連絡担当 岩田臣生

### ●植物相調査

9/18 モニ 1000 植物相調査(植物班/ 吉留、武久、林、佐崎、吉田、谷口、佐藤(登)、佐藤(三)、白澤)

### ●中大型哺乳類調査(水田ビオトープ班 岩田臣生)

9/8(日) [モニ 1000\)哺乳類調査カメラ回収\(1人\)](#)

9/20(金) モニ 1000 生田緑地哺乳類調査カメラ設置

### ●水環境調査(水田ビオトープ班 岩田臣生)

9/24 [モニ 1000 生田緑地水環境調査](#)

## 3) 皆でできる自然調査

今年はカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べています！

★今年度は対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

川崎市青少年科学館（通称:宙と緑の科学館）との協働事業として進行をしています。

調査用紙は配布をしていますが、科学館ホームページからも読み取れます。

★9月はヘビの目撃情報が届きました。

死骸でしたが、宮前区のジムグリ。黒川では複数種のヘビ。

多摩区ではご自宅の庭で大きなアオダイショウの脱殻。

皆さんの情報をお待ちしています。

### ★コウモリ調査

自宅近辺での目撃情報を戴いています。

コウモリはもうすぐ冬眠。ご自宅付近で確認がまだの方は10月中にご確認をお願いいたします。

そんな中、コウモリが大好きな方がコウモリが縁で調査団に入団。

団員がいない地区を精力的調べています。

定点観察を通しての知見などから、コウモリ調査は“確認。未確認。”とは違うレベルになりそうです。

担当 岩田芳美

## 2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(9月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1~3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

#### ● 9/1 植物の観察

ガイド 植物班(吉田多美枝、佐藤登喜子、吉留憲子)

参加者 31名

9月になっても盛夏の暑さが続きました。そこで、この日も木陰で起伏も少ないコースで秋の花や果実を観察をしました。

ヌスビトハギ、ヤマホトギス、トキホコリ、ナンバンギセルなどを熱心に観察し。

スズメウリの丸い実、トチノキの大きな実に皆さん感激していました。

#### ● 9/8 土壌動物の観察

ガイド 水田ビオトープ班(佐藤利奈、岩田芳美、岩田臣生)

参加者 14名

土壌動物を通して自然の豊かさを調べました。

前夜は雨。当日も曇時々雨。前日に観察予定地にシートをかけて地面が濡れないようにしました。

当日は科学館実験室が空いていたので室内で作業と観察を行いました。実体顕微鏡等の機器を使用するため、途中中止を覚悟していましたが、実験室が使えて良かったと思いました。

肉眼による土壌動物の収集とファール(実態顕微鏡)を使つての観察。

5月に比べ成体が多かったので同定がしやすく、観察するにも分かり易く、楽しくできました。

#### ● 9/15 きのこの観察

雨天中止

きのこの観察会は年1回です。中止となり残念でした。



## 2) 里山の自然学校(9月)

9月の活動は有りませんでした。

10月6日(日)が稲刈りです。

## 3) 講師派遣(9月)

9/8	青少年科学館調査員養成講座 (きのこ)	きのこ班(4人)
9/14	上丸子使用学校 多摩川の学習(多摩川ディ)	昆虫 中臣謙太郎、横田光邦 植物 吉田多美枝、佐藤登喜子
9/22	とどろき水辺の学校 昆虫の観察	中臣謙太郎

## 4) シンポジウム《市民が考える川崎の自然と生物多様性》(12月予定)

かわさき自然調査団の自然調査活動は1983年に始まり、30年もの長期にわたって、行政と専門家と市民による協働として継続されてきました。

この調査によって得られた知見をもとに、川崎の自然もまだまだ捨てたものではないというメッセージを発信したいと考えて「川崎の生物100選」を選んでいきます。

この「川崎の生物100選」を見て、大都市川崎にも案外魅力的な野生生物が生息しているということを感じていただきたいと思います。

これについてはポスター展示、シンポジウム第1部、そして報告書での発信を計画しています。

また、昨今、話題になっているものの、なかなか理解できないという人も多いと思われる生物多様性について、4人の講師による講演とそれをベースにしたパネルディスカッションをシンポジウム第2部で行います。

と言っても、直接的に生物多様性についてお話いただくのではなく、生物多様性に関連して、先生方が今一番関心を持っていることを話していただくことにしました。

是非、皆さんも一緒に議論に参加していただきたいと思います。

なお、参加費は無料ですが、会場準備の都合から事前に電子メールでの参加申込をいただきたいと思いますので、ご協力の程、宜しく、お願いします。

また、ご不明のことなどありましたら、事務局( [sympo@konrac.org](mailto:sympo@konrac.org) )までお問い合わせください。

シンポジウムのポスターは[こちら](#)でダウンロードできます。(PDF 85KB)

期日 2013年12月1日(日)

会場 川崎市青少年科学館



協力 川崎市青少年科学館

助成 地球環境基金助成金

第1部 10～12時 《川崎の生物100選》

～まだまだ捨てたものではない川崎の自然～

第2部 13～16時 《市民が見つめる生物多様性》

基調講演1 大場信義(大場蛭研究所)

地域固有な自然観を育ててきたホタルが棲めるような里地の保全と復元の意義

基調講演2 岸 一弘(茅ヶ崎野外自然史博物館)

里山の生物多様性は保全されているのかー湘南地域を例に

基調講演3 佐久間淳子(環境ジャーナリスト)

未定

基調講演4 倉本 宣(明治大学農学部教授)

私たちと生田緑地の自然

パネルディスカッション コーディネーター 三島次郎(かわさき自然調査団団長)

パネル展示《川崎の生物100選》(11～12月予定)

期日 2013年11月6日(水)～11月17日(日)、11月30日(土)、12月1日(日)

会場 川崎市青少年科学館

期日 2013年11月15日(金)～12月14日(土)

会場 生田緑地ビジターセンター

協力 川崎市青少年科学館、生田緑地ビジターセンター

助成 地球環境基金助成金

### 3. 自然環境の保全に関する実践的事業

1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(9月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

(水田ビオトープ班)

9/1 修景のためのカナムグラ駆除(1人)

9/7 谷戸の水辺管理(1人)

9/10 上の田圃の稲起し、谷戸の合流付近のカナムグラ駆除(3人)

9/13 水辺保全とカナムグラ駆除(2人)

9/17 水辺保全、稲起し、カナムグラ駆除(3人)

9/18 稲起し、カナムグラ駆除(2人)

9/24 モニ 1000)水環境調査、田圃の草刈り(2人)

2)生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会(9月)

9月は7日(土)に里山倶楽部Aを21日(土)に里山倶楽部Bを開催します。

里山倶楽部Bは、次のような勉強会を行いますので、生田緑地以外のフィールドで活動している皆さんも遠慮なく、ご参加ください。

9/7(土) 里山倶楽部A <初秋の皆伐更新地区でコナラ林を育てる>

9/21(土) 里山倶楽部B 勉強会 外来樹木の太木とどうつきあうか

#### 4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業



生田緑地マネジメント会議自然会議(9月)

9/24 第5回自然会議 (出席/ 岩田、岩田、大貫、田村)

#### 5. その他

●班長会議

9月4日(水) 「川崎の生物100選」についての話し合い

●その他の会議

9月18日(水) 富士通(株)環境本部(2名)と生田緑地の生物多様性保全活動について話し合い

●新規入団者

ポール・マシー 2013/9/25 水田ビオトープ班

#### ////////// 10~11月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

10月

-----  
5日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-6回

-----  
6日(日)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第8回【稲刈り】

-----  
6日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
13日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【クモ】(クモ班)

-----  
14日(月)10:00~15:00 ◆里山の自然学校 第9回【脱穀】

-----  
19日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-6回 野鳥の森の植生管理  
-----

20 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【里山の自然】(水田ピオトープ班)

11月

2 日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-7回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)

3 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

10 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【シダ植物】(シダ植物班)

15 日(金) パネル「川崎の生物 100 選」展示(~12/14)

16 日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-7回 野鳥の森の植生管理 2

17 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)

24 日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。  
■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

//////////《編集後記》//////////

今年春に募集した水辺調査班の班員は応募者がいませんでしたが、まずは、身近な水辺の調査から始めました。  
今までと全く異なるフィールドは新たな発見の連続で、楽しいスタートになっています。  
来年に向けての事前調査の意味もありますので、できるだけ広げていきたいと思っています。  
また、同定能力不足をどのように解消するかも課題です。

## A Whisper of Nature 第13-08号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》平成25年11月4日配信

雑 想 ツチアケビ





今夏、雑木林の林床に、見慣れないが、見覚えのある植物を見つけました。色や形が与えるインパクトが強いので  
図鑑などで一度見たら忘れないのですが、実際に出会う機会は稀な植物です。

神植誌 2001によると神奈川東部の記録がありませんが、第2次、第3次の川崎市自然環境調査報告書には市  
内の記録がありました。

絶滅危惧種でもありませんが、少なくとも川崎では極めて珍しい植物の一つであると思います。

腐生植物で、根茎内にナラタケの菌糸束を取り込んで共生しています。

ツチアケビ *Galeola septentrinalis* Reichb.fil. ラン科 ツチアケビ属 日本固有種、別名 ヤマシャク  
ジョウ(山錫杖)

写真は、左から 6/15、7/2、8/13、10/12 に撮影したものです。

開花から2ヵ月間の変化は大きいのですが、その後は表面的には変化していないように見えます。

色も期待していた程には赤くなりませんでした。

生育環境については、森林内であればどこにでも出現するという話も、落葉広葉樹林の林床でササの群落の中  
に多いという話もあり、本当のところは分かりません。

ただ、林床の管理として2~3年に1度程度のアズマネザサ刈りをしている落葉広葉樹林のモニタリングの指標  
として使えるようだと面白いと思って観ています。

## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査 (10月)

10月は以下の調査を行いました

#### ●植物班

10/2 標本整理、保管、同定作業

10/9 標本整理、保管、同定作業

10/23 標本整理、保管、同定作業

10/30 標本整理、保管、同定作業

10/31 標本整理、同定作業

10/15、10/16、10/24、10/25、10/26 同定作業

10/31 木場英久先生(桜美林大学)にイネ科などの標本の精査をしていただきました。

植物班長、副班長が同席しました。

麻生区調査 10/4、10/11、10/17、10/21、10/27

多摩区調査 10/3、10/13、10/18、10/20、10/27、10/28、10/31

宮前区調査 10/4、10/10

川崎区調査 10/24

#### ★植物資料収集グループ

10/3、10/5 イネ科植物勉強会(多摩川登戸)

10/9 菅北浦特別緑地保全地区下見

10/31 菅北浦特別緑地保全珍調査

#### ●シダ植物班

10/4 五力田・五月台調査

10/19 高津区末長、新作・市民プラザ調査

10/18 法泉寺・薬師堂・旧三沢川などの調査

#### ●野鳥班

10/8 生田緑地調査

10/17 黒川調査

10/19 大師河原調査

10/22 黒川調査

#### ●キノコ班

10/10 生田緑地調査と同定作業

10/24 生田緑地調査と同定作業

#### ●地学班

10/2、10/9、10/23、10/30 現生花粉の同定作業

#### ●昆虫班

蛾類研究グループ

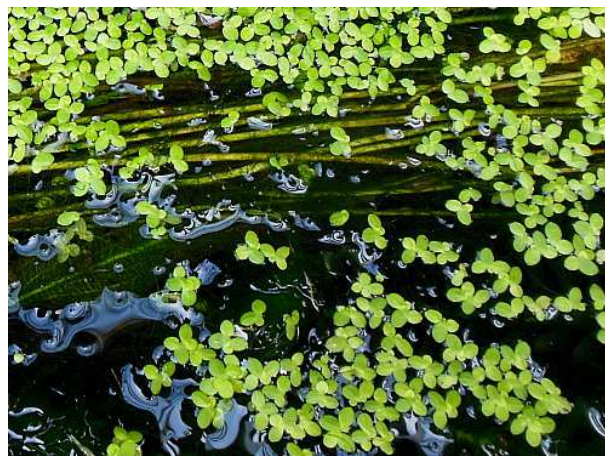
10/17 データベース作成作業、生田緑地調査

10/24 データベース作成作業、生田緑地調査

10/28 生田緑地調査

#### ●水辺調査班

[10/3\(木\) 多摩川水系二ヶ領用水 多摩区登戸  
の調査](#)



10/11(金) 多摩川水系三沢川源流(黒川)の水辺調査(水辺調査班)



10/22(火) 多摩川水系二ヶ領用水の水辺調査(登戸～宿河原)(水辺調査班)



10/23(水) 鶴見川水系矢上川上流の水辺調査(宮前区馬絹～高津区梶ヶ谷)(水辺調査班)



10/29(火) 多摩川水系二ヶ領用水・三沢川 多摩区中野島・菅馬場・菅北浦の調査

### ●他団体との連携調査

#### 2) [環境省モニタリングサイト1000里地調査](#) [生田緑地調査](#) (10月)

モニ 1000 里地調査に参加を希望される人を募集しています。

第3期のモニタリングサイト 1000 里地調査が今年度から始まっています。興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ 1000 里地調査 生田緑地連絡担当 岩田臣生

#### ●植物相調査

10/9 モニ 1000 植物相調査(植物班/ 吉留、林、村山、谷口、矢口、渡部、佐藤(登)、佐藤(三)、白澤)

#### ●中大型哺乳類調査(水田ビオトープ班 岩田臣生)

9/20～11/2 定点カメラ作動中

#### ●水環境調査(水田ビオトープ班 岩田臣生)

10/23 [モニ 1000 生田緑地水環境調査](#)

#### 3) 皆でできる自然調査

今年はカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べています！

★今年度は対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

川崎市青少年科学館（通称:宙と緑の科学館）との協働事業として進行をしています。

★10月もヘビの目撃情報が届いています。

生田緑地ではアオダイショウの幼蛇が目撃され、写真も戴きました。

見慣れた成体とは全く違う模様でした。

★カエル情報

自宅近辺でのカエルの目撃情報も届いています。

**11月中にお手元の調査用紙を送ってください！！**

11月になると両生類、爬虫類、コウモリは冬眠です。

そろそろ調査も終わりです。

調査用紙を送付、若しくは各班長か岩田に直接お渡しください。

宜しく願いいたします。

担当 岩田芳美

## 2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(10月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1～3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

#### ● 10/6 植物の観察

ガイド 植物班(吉田多美枝、佐藤登喜子、吉留恵子)

参加者 39名

七草峠をゆっくりと草の花を観察しながら登り、ピクニック広場、ハンノキ林、ほたるの里までの観察をしました。

朝まで降っていた雨が上がり、秋定番の観察コースでツリフネソウ、オオミゾソバや珍しいアケボノソウ、コメナモミ、ツルニンジン、ノササゲ、ツルマメ、ヤブマメ等を見ました。

ほたるの里では稲刈りの最中で秋を感じる和やかな観察会となりました。

#### ● 10/13 クモの観察

ガイド クモ班(成田和子) サポート上原京子

参加者 19名

科学館、県の木見本園、菖蒲池までをクモを観察しながら歩きました。

この日見られたクモは11種と少なめでしたが、天候も良く、初参加の方もリピーターの方も観察会を楽しんでいました。

今回はクロマルイソウロウグモ等普段は見られないクモ



を見ることができました。

● 10/20 里山の自然観察

雨天のため中止

今年度 4 回目の雨天中止となりました。

2) 里山の自然学校(10 月)

◎10/6(日) 里山の自然学校第 9 期第 8 回「稲刈り」

◎10/14(月) 里山の自然学校第 9 期第 9 回「脱穀」

3) 講師派遣(10 月)

10/8	立教大学	岩田芳美
10/28	下作延小学校 自然の学習	中臣謙太郎、吉田多美枝
10/29	上丸子小学校 植物の学習	吉田多美枝

4) シンポジウム《市民が考える川崎の自然と生物多様性》(12 月予定) **要事前申込**

期日 2013 年 12 月 1 日(日)

会場 川崎市青少年科学館

協力 川崎市青少年科学館、日本自然保護協会

助成 地球環境基金助成金

第 1 部 10～12 時 《川崎の生物 100 選》

～まだまだ捨てたものではない川崎の自然～

第 2 部 13～16 時 《市民が見つめる生物多様性》

基調講演 1 大場信義(大場蛸研究所)

地域固有な自然観を育んできたホタルが棲めるような里地の保全と復元の意義

基調講演 2 岸 一弘(茅ヶ崎野外自然史博物館)

里山の生物多様性は保全されているのか ー神奈川県低地域を例に ー

基調講演 3 佐久間淳子(環境ジャーナリスト)

東電・福島第一原発事故がはからずも教えてくれた生物多様性  
～福島県の里山・飯舘村で起きている生き物たちの異変～

基調講演 4 倉本 宣(明治大学農学部教授)

大規模緑地における自然観の異なる主体の協働のあり方

パネルディスカッション コーディネーター 三島次郎(かわさき自然調査団団長)

5) パネル展示《川崎の生物 100 選》(11～12 月予定)



①期日 2013年11月6日(水)～11月17日(日)、11月30日(土)、12月1日(日)

会場 川崎市青少年科学館

②期日 2013年11月15日(金)～12月14日(土)

会場 生田緑地ビジターセンター

協力 川崎市青少年科学館、生田緑地ビジターセンター

助成 地球環境基金助成金

### 3. 自然環境の保全に関する実践的事業

#### 1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(10月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

(水田ビオトープ班)

●10/1(火) オダ下の草刈り(水田ビ班)

●10/3(木) 田圃の草刈り(水田ビ班)

●10/7(月) 潰れたオダの立て直し(水田ビ班)

●10/8(火) 科学館裏谷戸のヤツデ、アズマネザサ除伐(野鳥班、水田ビ班)

●10/12(土) 湿地のヤマグワ刈り(水田ビ班)

●10/21(月) 谷戸の水辺管理(水田ビ班)

●10/23(水) 科学館裏谷戸の倒木処理(水田ビ班)

●10/28(月) 籾干し、湿地の保全、籾摺り(水田ビ班)

●10/31(木) 湿地の保全(水田ビ班)

#### 2) 生田緑地マネジメント会議自然環境保全会議市民部会(10月)

●10/5(土) 里山倶楽部A(雨天中止)

●10/19(土) 里山倶楽部B 野鳥の森地区の植生管理(間伐、放置材の片付けなど)



### 4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

## 5. その他

### ●班長会議

10月は「川崎の生物 100 選」についての話し合いを2回、行いました。

10月9日(水)

10月30日(水)

### ●その他の会議

10月4日(金) マネジメント会議 運営会議

10月31日(木) 指定管理者及び生田緑地整備事務所と指定管理者が計画している生田緑地ガイドツアーについて協議

### ●新規入団者

政野祐一 2013/10/14 水田ビオトープ班

井口 史 2013/10/24 キノコ班

井口 良子 2013/10/24 キノコ班

大塚 勇 2013/10/24 キノコ班

柳川 睦子 2013/10/24 キノコ班

### ////////// 11~12月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

11月

-----  
2日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-7回 皆伐更新地区の植生管理(里山倶楽部事務局)

-----  
3日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
3日(日)13:30~15:30 ●生田緑地哺乳類調査公開同定会(水田ビオトープ班)

-----  
6日(水) パネル展示「川崎の生物 100 選」展示(~11/17 かわさき宙と緑の科学館)

-----  
6日(水)13:30~15:30 ●班長会議

-----  
10日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【シダ植物】(シダ植物班)

-----  
15日(金) パネル展示「川崎の生物 100 選」展示(~12/14 生田緑地ビジターセンター)

-----  
16日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-7回 野鳥の森の植生管理 2

-----  
17日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)

-----  
24日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
27日(水)13:30~17:00 ●班長会議(シンポジウムの最終打ち合わせ)

-----  
30日(金) パネル展示「川崎の生物 100 選」展示(~12/1 かわさき宙と緑の科学館)

-----  
12月

-----  
1日(日)10:00~15:00 ●シンポジウム「川崎の自然と生物多様性」

7日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-6回

8日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【蛾】(昆虫班)

15日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)

15日(日) 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会の勉強会<<かわさき自然調査団に学ぶ>>の講師(事務局)

21日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-8回 萌芽更新地区の植生管理

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。  
■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

### //////////《編集後記》//////////

10月は水辺調査の次年度本格調査の下見を行いました。

コンクリート3面張りの市内の河川でも奇跡的に藻類が残っている流れもあります。

道路側にススキ、セイタカアワダチソウ等が繁茂している川を上からのぞくと流れの側で食餌行動をするセキレイが沢山見られました。

まだまだ捨てたものではない川崎の自然を体感しています。

生田緑地全体の管理を指定管理者が担当し、生田緑地整備事務所が設置され、生田緑地マネジメント会議が起動して半年が経過しました。

この間の様々な出来事を通して、生田緑地ビジョン策定検討委員会の時には理解できなかった「協働のプラットフォーム」について理解させられつつあります。

生田緑地のポータルサイト、ビジターセンター、生田緑地マネジメント会議の事務局が「協働のプラットフォーム」となっていないと、市民活動は活力を失い、生田緑地の生物多様性は守れなくなると感じています。

2003~2004年度に開催された総合計画市民会議においては、市長から、「市民ができることは市民に任せたい」という方針を与えられて会議が進められました。

その数年後、川崎市協働のルール策定検討委員会が開催され、協働について議論されて協働型事業についての詳細なルールがつくられました。

行政と市民の協働については歴史もあり、会議による検討も行われています。

これらの知見に基づいて、適切に「協働のプラットフォーム」が運営されることを、切に願っています。

## A Whisper of Nature 第13-09号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》平成25年12月3日配信

雑 想 シンポジウム「川崎の自然と生物多様性」

12月1日(日)、川崎市青少年科学館において、シンポジウム「川崎の自然と生物多様性」を開催しました。

その第1部では既にパネル展示を行っている「川崎の生物100選」の発表を行いました。

これは、1年前から班長会議を重ねてきた成果です。

そして、当日は簡単なアンケートを行い、100 選の中から 10 選を選んで戴きました。  
アンケートには約 70 人の人が回答してくれました。  
今回は、速報として、この得票結果から 10 票以上獲得した種を公開したいと思います。  
ベースは調査団が選んだものですが、発表者の説明の内容などによる影響もありそうです。



第 1 位 27 票 ホトゲドジョウ



第 2 位 24 票 スジグロボタル



第 3 位 23 票 タマノカンアオイ



第 4 位 20 票 オオムラサキ



第 5 位 19 票 オオタカ



、キンラン



第 7 位 18 票 ゲンジボタル



第 8 位 17 票 ミドリシジミ



、カワセミ

第 10 位 16 票 ヤマユリ



第 11 位 15 票 ミゾゴイ



トビハゼ



第 13 位 14 票 アオゲラ



イヌタヌキモ



第 15 位 13 票 シュレーゲルアオガエル



第 16 位 11 票 コナラ



マキノスミレ



タヌキ



第 19 位 10 票 トキホコリ



ヤマトタマムシ



ハイケボタ

ル



アケボノソウ



哺乳類 1種、野鳥 3種、魚類 2種、両生類 1種、昆虫 6種、植物 8種

このアンケートは、100種の説明を集中して聞いていただくための仕掛けのつもりで行いました。

これをどう活用するかなどは考えていませんでしたが…。皆さんの感想などお寄せいただきたいと思います。

## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査 (11月)

11月は以下の調査を行いました

#### ●植物班

11/6 標本整理、保管、同定作業

11/13 標本整理、保管、同定作業

11/20 標本整理、保管、同定作業

11/27 標本整理、保管、同定作業

同定作業 11/4、11/15、11/16、11/28、11/29、11/30

麻生区調査 11/9、11/15

多摩区調査 11/3、11/17

宮前区調査 11/9、11/11、11/14

高津区調査 11/11

中原区調査 11/8

#### ●植物資料収集グループ

11/24 多摩川調査とキク科植物の勉強会

#### ●シダ植物班

11/1 生田緑地調査、標本整理、保管作業

11/8 観察会下見、標本整理、保管作業

11/15 標本整理、保管作業

11/29 長者穴付近のシダ植物保全活動、標本整理、保管作業

#### ●野鳥班

11/12 生田緑地調査

11/14 黒川調査

11/16 大師河原調査

11/26 黒川調査

#### ●キノコ班

11/14 生田緑地民家園内の調査と同定作業

11/28 生田緑地調査と同定作業

#### ●地学班

11/6、11/13、11/20 現生花粉の同定作業

### ●昆虫班

蛾類研究グループ

11/2 データベース作成作業、生田緑地調査

11/6 生田緑地調査

11/8 データベース作成作業、生田緑地調査

11/14 生田緑地調査、電子顕微鏡撮影

11/18 生田緑地調査

11/21 生田緑地調査

11/26 生田緑地調査、同定作業

11/28 生田緑地調査、標本作成

### ●水辺調査班

11/5 矢上川調査(野川)

## 2) [環境省モニタリングサイト1000里地調査](#) [生田緑地調査](#) (11月)

モニ 1000 里地調査に参加を希望される人を募集しています。

第 3 期のモニタリングサイト 1000 里地調査が今年度から始まっています。興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ 1000 里地調査 生田緑地連絡担当 岩田臣生

### ●植物相調査

11/13 モニ 1000 植物相調査(植物班/ 吉留、林、村山、吉田、谷口、矢口、渡部、佐藤(登)、佐藤(ミ)、白澤)

### ●水環境調査(水田ビオトープ班 岩田臣生)

11/24 [モニ 1000 生田緑地水環境調査](#)

## 3) 皆でできる自然調査

今年はカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べています！

★今年度は対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

川崎市青少年科学館(通称:宙と緑の科学館)との協働事業として進行をしています。

★11月中に調査用紙送付をお願いしたところ沢山の調査用紙と写真が届きました。

これからまとめにはいりますが、

**お手元に調査用紙をまだお持ちの方はぜひ送ってください！！お願いいたします。**

11 月末になりコウモリも冬眠と思っていたのですが、コウモリ調査をされているマシーさんから未だ動いているという情報を 12 月 1 日に戴きました。

他の生物からの思い込み、見込み調査は駄目だということですね。

## 2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(11月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1~3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

今月はシンポジウムの関係で4回実施しました。

#### ● 11/3 植物の観察

ガイド 植物班(吉田多美枝、佐藤登喜子、谷口紀美代)

参加者 40名

中央広場からつつじ山まで秋の草、木の実を観察しました。他の植物に先立ち紅葉するナンキンハゼが綺麗に色づき、皆で楽しみました。

40人という人数の割にコンパクトにまとまり、気持ちのよい天候の下で充実した観察会ができました。

#### ● 11/10 シダ植物の観察

ガイド シダ植物班(長谷川和甫、遠藤継男、大貫はるみ、園田明子、岩片紀美子、田村三貴)

参加者 13名

~ハナワラビの花はどんな花?~フユノハナワラビとオオハナワラビの比較検討。

ノキシノブの楕状鱗片の観察。ヤブソテツ、ナガバヤブソテツの外見触感の違いなどを中心に観察をしていただきました。

ファール、ルーペを使つての観察で『今後の植物観察に興味を持てた。』『納得行くことが多かった。』とつて戴けました。

#### ● 11/17 野鳥の観察

ガイド 野鳥班(大橋毅、水田茂子、中村亨、平賀孝政、大森洋子)

参加者 49名

今回から野鳥の森コースは初心者とベテランの2グループに分けて観察をしました。説明が行き届きじっくり観察できて良かったと思います。

野鳥の森のコース14種、ほたる里コース14種を観察しました。

中央広場で商店街のイベントがあつて大音量がしていましたが、鳥の出がそこそこ有つたので参加者からの苦情は無く、ほっとしました。

#### ● 11/24 植物の観察

ガイド 植物班(吉田多美枝、佐藤登喜子、吉留憲子)

参加者 37名

今月は来月第1週の生田緑地観察会がシンポジウム開催のため実施出来ないのので11月第4週の24日に実施をしました。

七草峠から芝生広場、戸隠不動跡地と紅葉、黄葉の美しいコースを歩きました。木の実、草の実の観察をの日の



目玉としました。

また、紅葉の仕組みの話をしたところ、この日の朝の NHK 番組でも紹介をしたようで、それを見た人が何人もいました。

晴れあがり、紅葉が青空に映え殊のほか美しく、1週間早い観察会が幸いしたのかも知れません。

## 2) 里山の自然学校(11月)

◎11/23(土) 里山の自然学校第9期第10回「秋の里山」

## 3) 講師派遣(11月)

11月9日 下作延小学校 文化祭生き物の話 (中臣謙太郎、吉田多美枝)

11月22日 上丸子小学校 自然の学習 (中臣謙太郎、吉田多美枝)

11月30日 明治大学 里山の中で里山を学ぶ (岩田芳美)

## 4) シンポジウム《市民が考える川崎の自然と生物多様性》

12月1日(日)、青少年科学館に於いて開催しました。

講師以外の参加者は128人でした。

確か、建築計画の段階で説明された時は収容150人位だったと記憶していたのですが、このような利用の場合は100人と考えた方が良さそうです。

混み具合は盛況感が感じられて丁度良かったと思います。

アンケートの中に、スクリーンの下半分が見えなかったというものがありました。

天井が低いので、スクリーンの大きさを有効に使うことができません。

また、外来種のマツヘリカメムシが室内に入っているようで、スクリーンの前を飛んでいました。

川崎の生物100選の選択および発表をしてくれた皆さんは、

植物班(吉田多美枝、佐藤登喜子)、シダ植物班(大貫はるみ)、野鳥班(佐野悦子、水田茂子)、昆虫班(野澤興一、雛倉正人)、クモ班(成田和子)、水田ビオトープ班(岩田臣生)でした。

選定のための何回もの会議、1種1分という短い時間での発表内容の検討など、お疲れ様でした。

当日の進行、受付、写真撮影、機材操作、会場整理、車椅子参加者の対応などを担当してくれた皆さんは、

進行(岩田芳美)、受付等(上西登志子、神山歩未)、写真(平賀孝政)、機材操作(岩田臣生)、車椅子参加者の対応も含めた会場整理等(小泉恵佑、岡英雄、杉本泉、堀内慈恵、村山早紀)でした。

お疲れ様でした。

## 5) パネル展示《川崎の生物100選》(11~12月予定)

①期日 2013年11月6日(水)~11月17日(日)、11月30日(土)、12月1日(日)

会場 川崎市青少年科学館

②期日 2013年11月15日(金)~12月14日(土)

会場 生田緑地ビジターセンター

協力 川崎市青少年科学館、生田緑地ビジターセンター

助成 地球環境基金助成金

### 3. 自然環境の保全に関する実践的事業

#### 1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(11月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

(水田ビオトープ班)

●11/1(金) 湿地の保全(水田ビ班)

●11/7 水辺の保全とアメリカザリガニ駆除(水田ビ班)

●11/8 上の田圃の手入れ、草刈(水田ビ班)

●11/18 ハンノキ林の水辺の保全とアメリカザリガニ駆除(水田ビ班)

●11/19 湿地の水辺の保全(棚田状水域づくり)、アズマネザサ刈り(水田ビ班)

●11/20 上の田圃の畔の改修、草地の草刈り(水田ビ班)

●11/22 哺乳類の足跡観察、アズマネザサ刈り、苗木畑の草刈り(水田ビ班)

●11/27 上の田圃の下の段の畔づくり(水田ビ班)

#### 2) 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会(11月)

●11/2(土) 里山倶楽部A<秋の皆伐更新地区でコナラ林を育てる>

●11/16(土) 里山倶楽部B 野鳥の森地区の植生管理(間伐、放置材の片付けなど)

### 3. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

●生田緑地マネジメント会議自然会議の事前打ち合わせ

11月1日(金)18:00～、於、生田緑地整備事務所

### 4. その他

●班長会議

11月は「川崎の生物100選」についての話し合いを2回、行いました。

11月6日(水) (岩田臣生、岡英雄、大貫はるみ、佐藤登喜子、佐野悦子、野澤興一、雛倉正人、水田茂子、吉田多美枝、岩田芳美)

11月27日(水)(三島次郎、岩田臣生、岡英雄、大貫はるみ、佐藤登喜子、佐野悦子、杉本泉、野澤興一、雛倉正人、平賀孝政、水田茂子、吉田多美枝、岩田芳美)

●新規入団者

細川 洋子 2013/11/1 水田ビオトープ班

木坂 陽子 2013/11/1 水田ビオトープ班

千葉 正毅 2013/11/12 野鳥班

////////// 11~12月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

12月

-----  
1日(日)10:00~15:00 ●シンポジウム「川崎の自然と生物多様性」  
-----

7日(土)10:00~15:00 ■里山倶楽部A 第A-6回  
-----

8日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【蛾】(昆虫班)  
-----

15日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)  
-----

15日(日) 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会の勉強会<<かわさき自然調査団に学ぶ>>の講師(事務局)  
-----

21日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-8回 萌芽更新地区の植生管理  
-----

1月

-----  
12日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【里山の自然】(水田ビオトープ班)  
-----

18日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-9回 萌芽更新地区の植生管理 2  
-----

19日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)  
-----

26日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【地層】(地学班)  
-----

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。

■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

//////////《編集後記》//////////

今年度、地球環境基金の助成金を受けて実施している事業「川崎の自然に関する知見を共有し、大都市における生物多様性について考えるシンポジウムの開催及び市民連携モニタリング・ネットワーク構築に向けた検討」は、実際には、市内の主要な場所で活動している団体との連携調査の試み、30年間の調査による知見に基づいた「川崎の生物100選」づくり、そしてシンポジウム「川崎の自然と生物多様性」の3つの事業を連動する形で展開しています。

シンポジウムが盛況だった一つの理由は、市内各地で里山保全活動をしている団体からの参加が得られたから

だと思っています。

里山倶楽部でも考えてはいたものの、実現できなかった市内の広い範囲での連携活動の糸口が見えてきたような気がしています。

これは、保全活動だけではなく、30年間に亘って継続してきた全市的な調査活動があって、むしろ調査を軸にしたことで可能になったことだと感じています。

これから、記録報告書を作成していきますが、啓発や更なる連携のために使えるものにまとめたいと考えています。

盛況であったもう一つの理由は講師陣にあると思います。

私たちが協力をお願いできる先生方の中から、分野の偏りを少なくして、和やかに、楽しく開催できるメンバーで構成しました。

そして、2月には顔合わせの話し合いを行い、準備を進めてきました。

先生方には、今一番関心のあることを講演してくださいとお願いしました。

これを企画して、事業として組み立てる立場の者が、先ずは一番に楽しみたいと思っただけのことです。

第1部と第2部は全く異なる次元の話にしましたので、長時間ではありましたが、人それぞれに別の収穫があったものと考えています。

「また開催してくれ」という意見が聞かれましたが、事務局としては、まだ活動が完了していませんので、次のことを考える余裕がありません。

今年は調査団の活動30年という節目でもあり、セレモニーに調査団生みの親、育ての親である若宮崇令元館長に長野県より御出で戴きました。

若宮元館長は団員はもとより、講師の先生方とも久しぶりの再会。嬉しいひと時が持てました。



## A Whisper of Nature 第13-10号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》平成26年1月1日配信



新年明けましておめでとうございます

昨年は皆様大変お世話になりました

本年もどうぞ宜しくお願いします



上の写真は、12/1のシンポジウムを運営したスタッフと講師の先生方です。会場の後片付け後に撮りました。

## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査 (12月)

12月は以下の調査を行いました。

#### ●植物班

12/4 標本整理、保管、同定作業

12/11 標本整理、保管、同定作業

12/18 標本整理、保管、同定作業

12/25 標本整理、保管、同定作業

同定作業 12/5、7、8、9、12、13、14、15、16、19、20

麻生区調査 12/5

多摩区調査 12/13

#### ●シダ植物班

12/6 標本整理、保管作業

12/13 日本民家園調査、標本整理、保管作業

12/20 日本民家園調査、標本整理、保管作業

#### ●野鳥班

12/12 黒川調査

12/13 生田緑地調査

12/14 大師河原調査

12/24 黒川調査

●キノコ班

12/12 生田緑地民家園内の調査と同定作業

12/26 生田緑地調査と同定作業

●地学班

12/18 現生花粉の同定作業と打ち合わせ

●昆虫班(蛾類研究グループ)

12/7 生田緑地調査、電子顕微鏡撮影、標本作成

12/8 生田緑地調査

12/12 生田緑地調査、電子顕微鏡撮影

12/16 生田緑地調査

12/19 データベース作成作業、生田緑地調査

12/21 生田緑地調査

調査活動を振り返って

植物班の活動

植物班では、川崎市生物目録、川崎植物誌の基礎資料として、川崎市内7区に生育する野生植物の採集、腊葉標本の作製、登録、収蔵を主とした作業として行ってきました。あわせて、青少年科学館の改築による収蔵庫の移転に伴う標本の収めなおしと、照合も重要な作業として行ってきました。これらの作業は各分野に分れて班員全員で行っています。

採集と同定は毎週1回の活動日の時間内では不可能なため、班の活動を離れて3名の班員が活動日以外の時間に個人的に行っています。

班員全員で取り組んでいる活動には、生田緑地内の、あらかじめ定めたルートを担当者に分け、月に一度、草本植物の開花結実を記録するモニタリングサイト1000里地調査があります。

このほかに毎月第一日曜日に植物班有志がガイドをする生田緑地観察会の植物を担当しています。この生田緑地観察会(植物)は好評で毎回50名前後の参加者がいます。対象は初心者ですが、皆さんからはするどい質問も多々出てきます。皆さん毎回楽しみに参加して、参加者同士の輪も出来ているようです。

最後に植物班の抱える問題点 ①班員の減少と高齢化 ②採集者の不足 来年こそは少しでも改善できたらと思っています。

(吉田多美枝)

腊葉(さくよう) = 圧して乾かした草木の枝葉などの標本(広辞苑第六版より引用)

各地の団体と連携した植物調査

川崎市生物目録、川崎植物誌の発行に向け、川崎市内7区の植物調査・採集を行っていますが、植物班だけでは限界を感じていました。今回、シンポジウム川崎の自然と生物多様性の関連事業として市内の活動団体との連携調査を行いました。大きな収穫を得ることができました。

大師河原干潟館で活動する多摩川干潟ネットワークとの連携調査では、多摩川河口の塩湿地の植物と珍しい帰化植物。

幸区のさいわい夢ひろば友の会とのさいわい夢ひろば(さいわいふるさと公園)での連携調査では市街地の公園の植物(元 JR の操作場跡地)。

中原区のとどろき水辺の楽校との連携調査では多摩川河原の植物。

麻生区での早野聖地公園里山ボランティア(早野聖地公園)、はるひ野里山学校(黒川谷ツ公園)、水辺のある里山を守る会(よこみね緑地)との連携調査では丘陵の植物と丘陵の湿地の植物。

いずれも川崎市を特徴づける場所の調査でした。絶滅危惧種、貴重種など含め多くの種の確認と採集ができ、調査の成果は大きいものでした。

また、それ以上に活動団体との交流も記憶に残りました。皆さん調査に協力的で、中には草刈りを、『調査が終わってから。』と待っていて下さったところもありました。充実した調査を行うことができ感謝しております。

(佐藤登喜子)

キノコ班の活動 (2013年11月28日のキノコ班)

今年1番うれしかった事は新しいメンバーが4人も入られた事。

10時、この日の観察コースを確認し出発。2週間前クスノキの根元に発生していたニガクリタケがどうなったか観察。跡形なし。少し先の切り株の穴に発生しているビョウタケ(画鋏みたいだからビョウタケ)を観察。大きくなって健在でホッとする(大きいと言っても2mm弱)。サザンカの下にコフキサルノコシカケが出ているのを、新メンバーが発見。サザンカが咲き始めたのでツバキキンカクチャワンタケが出ていないかゴソゴソ落ち葉を掻き分けて探す。枳形山広場ではセンベイタケ?(調べたらアラゲカワラタケ)、クロコブタケの仲間を採集。竹の垣根から黒いビョウタケが出ていた。戸隠不動跡に向かう。ウチワタケ?(調べたらツヤウチワタケ)を採集。足元の落ち葉を掻き分けたら、サクラの小枝に黒い小さな点々が。わ~い、またビョウタケ!採集袋に入れる。少し先にはエノキタケらしい群生が乾いて黒くなったもの。これは記録だけ。ニクウスバタケ?(調べたらオロシタケ)、ムラサキコウヤクタケ?(当たり!）、カワウソタケ?(ネンドタケ)、小さいヒダのキノコ(クロシジミタケ)・・と野外での観察は続く。ツチグリがよく出る所を見たが姿なし。ジャガイモタケという名のまるで小さなジャガイモのような地下生菌が出る場所を通ったが姿なし。時期的に遅いのかもしれない。芝生広場でエゴノキタケ。これは見えずぐ分かる特徴あるキノコ。これが付いていたら、その木はエゴノキ。

昼食後、採集して来たキノコを並べ誰が何を観察するか決めた。私はビョウタケを選んだ。大きいもので1.5mmしかないので材に付いたまま切片作り。スライドガラスに載せメルツァーというヨウ素液みたいので染色すると、子嚢の半分以上が青く染まった。こんなの見るのは初めてだ。染まる時はたいてい先端だけだからだ。う~ん、何だろう。手分けしてキノコと顕微鏡観察の写真撮影をする。

野外の観察でキノコの名前は分かる範囲で記録していくが、これはあくまで仮同定。この日、観察した18種のうち、詳しい観察の結果10種に新たな名前がついた。最後にみんなで、同定の確認をして、乾燥標本にするものを選んだ。

サクラの小枝のビョウタケは翌日、盤菌類(茶碗や皿の形をした菌類)のHPで検索すると *Dactylospora stygia* (写真)に行き着いた。子嚢はメルツァーで広範囲に染まる。これこれ!写真も同じ!科学博物館の細矢剛先生が変種について書かれた論文に図版が載っていた。同じだ~!すごくうれしかった。でも後日、ビョウタケではないと指摘され、あっそうか~。

(きのこ班 杉本 泉)

ケヤキ周辺には 15 種以上の昆虫が生息していました。枳形山の広場にはケヤキが鬱蒼と茂り、涼しい木陰が広がっているので、地面はいつも湿気をおびていて、幹の北側には苔、地衣が生えています。昆虫が集まる交遊の場です。

2010 年 5 月～6 月、4 種類の小蛾(翅長 6～8mm)が木陰の地面を敏捷に飛んでいる光景を発見しました。ニレコヒメハキの食餌はケヤキであり、ニセコシワヒメハマキ、クロマダラシロヒメハマキ、オビカクバナヒゲナガキバガは近くの草木から訪れていました。

2011 年、微小蛾の行動を観察していると、ケヤキの幹に小さい昆虫がふわっと浮かぶように飛んでいたの、近づいて虫眼鏡で見ると、幼虫が葉に潜って成長する美しいミツオビキンモンホソガ(翅長 2.5 mm)でした。この蛾は生田緑地では初記録のホソガ科の葉潜り蛾ですが、菅生緑地、森林公園など何処のケヤキにも生息している普通種であることが分かりました。図鑑によると、ケヤキにはケヤキキンモンホソガも生息しているようです。

2012～2013 年、ミツオビキンモンホソガの幼虫を探すためにケヤキの食痕を調べたところ、7 種類の軌跡を確認して、その中にミツボシキンモンホソガの食痕と同じ軌跡を見つけました。7 種類の軌跡に対応した昆虫名を未だ識別できていませんが、ケヤキの葉を食べる微小昆虫がいることが分かりました。また幹を観察していると、ミツボシキンモンホソガと色紋様の似たヤマシロヒメヨコバイ(体長 3mm)、ウンカ類が飛んでいました。ヤマシロヒメヨコバイはケヤキの幹の樹皮の下で越冬している報告がありますので、同じ紋様のミツオビキンモンホソガと共生しているかも知れません。

4 年間の観察からケヤキの大木は 15 種以上の昆虫に食餌、求愛、憩いの場を提供している現象が少しずつ分かってきました。来年もケヤキに集まる昆虫類を観察すると、きっと新しい種類と生態の発見があるだろうと楽しみにしています！！

(昆虫班ガグループ 野澤興一)

## 野鳥調査の報告 2013 年 4 月～12 月

### 生田緑地

4 月は冬鳥のアオジ、ツグミ、この辺りで繁殖する夏鳥のツバメ、また、生田緑地で羽を休めて通過していく鳥たちで、種類数が多くなります。桜の花が咲くのに合わせ、ヒヨドリやメジロも多くなります。今年もオオルリ、サンショウクイ、サンコウチョウが通過していましたが、滞在期間が短かったようです。5、6 月は野鳥の繁殖期間。キビタキは生田緑地で繁殖したようで、幼鳥が見られました。9、10 月頃より、渡り途中の鳥が入ってきます。エゾビタキやキビタキ、オオルリなどが見られました。でも今年は滞在期間、数ともに少なかったようです。11 月になり、そろそろツグミが見られる季節ですが、今年は遅れているようです。ルリビタキは青い羽をもった個体、雌の羽色をした個体など何羽か確認されています。今年の冬の冬鳥は、何が訪れてくれるでしょう。

### 黒川

東京電力変電所下の谷戸は 2011 年 8 月～2013 年 7 月までの埋め立てで貸農園になりました。汁守神社近くでは、2011 年 6 月～2013 年 8 月、柿畑などを潰し、戸建住宅、マンションになりました。黒川も田んぼや湿地が畑地に変わり、住宅も多くなってきました。

5、6 月に林の奥からキビタキのさえずりが聞こえました。繁殖したのかもしれませんが。10 月の下旬から、チョウゲンボウが 1 羽、三沢川沿いの田んぼ一帯を飛び、バツタ、カマキリなどを百発百中でつかまえています。ある時は、電柱から 20mほど離れた常緑樹の木の中に突っ込み、虫を捕え、別の近くの電柱の上で食べているのを見ました。時々カラスやセキレイ類などがちょっかいを出しますが、素知らぬ顔です。私たちが気付いてから、1 か月半くらいたっています。バツタやカマキリがいなくなったらどうするのだろうかなど、皆で心配しています。

(野鳥班 佐野悦子)



## 大師河原

年度始めの4月は珍しいヘラサギと河口ではあまり見られないキビタキの綺麗な雄の姿やツバメの土手をかすめるように飛ぶ姿が見られ、今シーズンを楽しませてくれると期待したのですが、その後は例年に比べるとカワウを除いて各種とも個体数が減少したように思えます。春北上するメダイチドリ・キアシシギ・ソリハシシギなども群が小さく調査日に見出せないこともありました。

夏鳥のオオヨシキリは例年どおり調査範囲の葦原で繁殖をし、にぎやかな声を聞かせてくれました。

9月からは冬鳥のカモ類カモメ類各種の小鳥が見られます、今年の飛来は少し遅いようですが群の中に珍しい種の姿を探すのも楽しみです。

殿町第2公園から大師橋にかけてスーパー堤防の工事の準備が始まりました。工事の進捗状況により調査範囲の変更がありそうです。

(野鳥班 松原迪郎)

## シダ植物班の団員紹介

夏の間はシダを求めて野外を歩き、冬は科学館で標本とたわむれ、いつも笑いが絶えないシダ植物班を紹介します。

Oさん ダジャレを崇高なものに思わせるシダ班リーダー。知能も知識も、もちろんシダへの愛情も∞(無限大)。個性派のメンバーが分裂せず協力体制ができるのは、そのリーダー力、コミュニケーション力のおかげです。マリノスに、その脳を、半分くらいのとられていました。

Iさん 大のコケ好きがシダに進出。シダ班の写真担当。めんどくさがりが高じて、仕事をさくさく進めることが得意です。

Eさん 最新70年間の超ローカルニュースを、昨日のこのように正確に話す、驚異の情報通。マメオと称される几帳面なお人柄。

Kさん 山間部出身だからか、およそこの世の、ありとあらゆるものを食糧にする(つまり植物とか虫に詳しい)。これからの時代、見習いたい技です。要所、要所でシダの姿も見逃しません。

Siさん シダを愛するあまり、観察だけでは飽き足らず、シダの気持ちを最優先に考えてしまうという、種族を超えてシダと親交のある人物です。

Soさん ふつうの奥様に見えるけど、本当はプテリスに属するシダの一種だったのです。脳の一部を、シダとスゲに乗っ取られています。

Tmさん 子連れの新鋭、森のインストラクター。子育てしながらシダの勉強中です。Aくんはシダ班のマスコットキャラクター。

Hsさん 科学の知識が広大で深い。しかもどんな質問でも、懇切丁寧に教えてくれます。旅先での土産を欠かさぬ愛妻家。

Hyさん 生田緑地を庭のように愛する、心優しいおひいさま。植物だけでなく周りの人々にも気を遣い、必要とあらば地味な作業をもこなす、献身的なお方です。

Tn リーダーOさんのダジャレに心酔して子連れでシダ班に入りました。頭の中身が岩と筋肉でできているらしく、思考は出たところ勝負、力仕事が専門ですが、シダのセンスを修行中。

(シダ班 田村成美)

## 水辺調査班の活動

川崎市生物目録作成を念頭に、未調査分野の水辺環境を調査するために期間限定の水辺調査班を今年度立ち上げました。

ただ、積極的な勧誘活動を行わなかったのが当然のように班員は集まらず 2 名で市内の川や水路、湿地などを調べ始めました。

最初の調査は水草とカエルの情報が地元の方からあった幸区古川小学校の校庭のコンクリートの池です。科学館に学校長の調査許可を取って戴き、ウェイダー持参で行きましたが、水草は残念ながら要注意外来植物のオオカナダモ。(以後の調査で至る所でオオカナダモに遭遇！)カエルはアズマヒキガエルでした。

その後、街の中を流れる水路などを調べてきましたが、偶然、セキショウモの花に出会えたりして、ドブ扱いされている流れも馬鹿にできないと感じています。

(水辺調査班 岩田芳美)

## 2)環境省モニタリングサイト1000里地調査 生田緑地調査(12月)

モニ 1000 里地調査に参加を希望される人を募集しています。

第 3 期のモニタリングサイト 1000 里地調査が今年度から始まっています。興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ 1000 里地調査 生

田緑地連絡担当 岩田臣生

### ●植物相調査

12/11 モニ 1000 植物相調査(植物班/ A 吉留、村山、BCD 吉田、渡部、EF 佐藤(登)、佐藤(三)、白澤)

### ●水環境調査

[12/25 モニ 1000 生田緑地水環境調査\(水田ビオトープ班 岩田臣生\)](#)

## 3) 皆でできる自然調査

昨年からカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べています！

★今年度は対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

川崎市青少年科学館(通称:宙と緑の科学館)との協働事業として進行をしています。

11月中旬に調査用紙送付をお願いしたところ沢山の調査用紙と写真が届きました。

有難うございました。

担当 岩田芳美

## 2.自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(12月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第 1~3 日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10 時まで青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

1日はシンポジウム開催のため、11月24日に行いました。

### ● 12/8 蛾の観察

ガイド 昆虫班蛾類グループ(野澤興一、成田和子、岩崎信一、上原京子)

参加者 17名

クロスジフユシヤクを中心に13種の蛾とカメムシ等の他の昆虫も観察しました。

参加者の皆さんが熱心に観察され、思ったよりも多くの蛾類を観察できました。

● 12/15 野鳥の観察

ガイド 野鳥班(佐野悦子、佐々木和子、森佳子、中村亨、瀧孔一郎)

参加者 74名

A 野鳥の森～つつじ山、B 七草峠～ほたるの里の2コースに分かれて観察しました。

両コース合わせて23種を確認できましたが、参加人数が多く移動に時間がかかってしまいました。

2) 里山の自然学校(12月)

12月の活動はありません。次回は2月11日(火) 冬の里山、修了式です。

3) 講師派遣(12月)

● [渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会主催学習会](#)

12月15日(日) 学習会「かわさき自然調査団に学ぶ」の講師 岩田臣生、岩田芳美

昨年ラムサール条約登録湿地となった渡良瀬遊水池で活動してきた渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会事務局の猿山さんから、かわさき自然調査団の活動について話してほしいという申出を戴き、同協議会主催の学習会に講師として参加しました。

調査団でも野鳥班の皆さんは良く知っている渡良瀬遊水池でしたが事務局は訪れたことが無かったことから、学習会の前に、猿山さんが現地を案内してくれました。

渡良瀬遊水池の第2調整池という区域では湿地の再生に向けた大規模な実験が進められていました。

長い年月をかけて堆積された土の中に眠っていた種子が発芽してくると、既に消えてしまっていた植物が復活してくる可能性があります。新たな植生の遷移の過程に立ち会える機会が生まれるかも知れません。

また、谷中村史跡にも連れて行っていただきました。

1877年に創業した足尾銅山精錬所による鉱毒が渡良瀬川沿岸に広がっていることが分かってから今に至る歴史を後世に伝える象徴的な場所です。

同行予定だった野鳥班の志村章子さんが体調を悪くして来られなかったのですが、彼女がいたら熱弁を聴きながら歩くことができたかも知れません。

渡良瀬遊水池はラムサール条約に登録されるほどの大規模な自然生態系が残っており、また伝え残すべき歴史があります。

しかし同時に、大規模河川の治水という国レベルの事業下にあります。

渡良瀬遊水池の自然と歴史を次代に引き継ごうとする渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会の皆さんの努力は大変なものだと推察しています。

今回は市民調査の進め方を検討するための学習会として受け止めて、調査団の30年間に亘る活動を紹介させていただきました。

4) [シンポジウム《川崎の自然と生物多様性》](#)、展示《川崎の生物100選》

2013年12月1日(日)、10～16時という長時間にわたるシンポジウム「川崎の自然と生物多様性」を開催しましたが、128人の参加者が集まり、会場は熱気に包まれました。

このようなイベントは参加者を集めるのに苦労するのが普通のことなのですが、今回は事前申込によって受付の手間を省こうとしたことによるものではないと思いますが、順調に名簿が埋まっていき、途中で広報を停止しました。折角、募集のための広報をしてくれるという東京新聞やFM横浜からの申出を断るという初めての体験をさせて戴きました。

シンポジウムの第1部は2時間かけて、「川崎の生物100選」の発表を行いました。

これは川崎の自然について普通の人に関心を持ってもらう方法として考えたもので、実を言えば、明確な選定基準を設定しておらず、各班からの提案と話し合いを何度も繰り返して決めたものです。何故、100選に選んだかということについてはシンポジウム場で発表することにしました。

前日に思いついて作成したアンケートでは、この100選の中から「貴方の10選」を選んでもらいました。実際には、1選の人もいれば、12選の人もいましたが、要はトップに掲げたい生物を選んでもらったと考えています。その結果についてはメールマガジンで報じたので、ここには記しませんが、2時間もかけて100種の生物についての話を聴いているのは大変だったことと思いますが、回答してくれた70人程の人たちは真剣に聴講してくれたものと思います。

調査団の活動は班毎に行われ、班の枠を越えて活動することは殆んどありませんので、100種の選定は大変でした。しかし、この作業は川崎の生物目録作成という次の課題に向けた弾みになるものと思います。

川崎の生物100選の発表は 植物班(吉田多美枝、佐藤登喜子)、シダ植物班(大貫はるみ)、野鳥班(佐野悦子、水田茂子)、昆虫班(野澤興一、雛倉正人)、クモ班(成田和子)、水田ビオトープ班(岩田臣生)の9人が行いました。

川崎市青少年科学館と調査団の協働による川崎市自然環境調査を記念して、山田友之・青少年科学館館長、若宮崇令・元青少年科学館館長からの挨拶のいただきました。若宮さんは、このために八ヶ岳から出てきてくれました。

第2部は調査団の今までの活動の様々な場面でご指導賜り、また共に歩ませても戴いた先生4人(大場信義、岸一弘、佐久間淳子、倉本宣)に生物多様性という軸でのご講演を戴きました。

講師の先生方には2月の生田緑地に集まって戴き、どのような話をするかという話し合いを行い、その後の意見調整を経て、私たちの活動を理解した上で、来場してくれた皆さんに対しては勿論のこと、私たちの活動の次のステップに対しての示唆に溢れた基調講演、ディスカッションを頂戴しました。企画運営を担当した者として心から感謝申し上げます。

続くパネル・ディスカッションのコーディネータは三島次郎団長が担当しました。会場からの質問を出発点に、里山、田んぼなどについてディスカッションが行われました。

また、会場では、野鳥班(平賀孝政)、水田ビオトープ班(岩田臣生、岩田芳美、神山歩未、小泉恵佑)、キノコ班(岡 英雄、杉本 泉)、地学班(上西登志子) が進行、受付、来場者ケア、整理、撮影などを担当しました。



(上の左は第1部の発表者、右は講師、来賓とシンポジウム事務局)

展示《川崎の生物 100 選》(12 月)

川崎市青少年科学館 での展示は 12 月1日(日)まで

生田緑地ビジターセンターでの展示は 12 月 14 日(土)まで行いました。

#### ※地球環境基金

本活動《川崎の自然に関する知見を共有し、大都市における生物多様性について考えるシンポジウムの開催及び市民連携モニタリング・ネットワーク構築に向けた検討》は 地球環境基金助成金の交付を受けて実施しています。

### 3. 自然環境の保全に関する実践的事業

#### 1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(12 月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

(水田ビオトープ班)

[12/4 下の田圃の畔づくり、田圃に落葉を湿地の保全活動\(2 人\)](#)

[12/5 ヨシ原の水辺の泥上げ、アメリカザリガニ駆除、草刈など\(3 人\)](#)

[12/12 ピクニック広場の草刈など\(4 人\)](#)

[12/25 モニ 1000\)水環境調査、田圃に落葉を入れる活動\(2 人\)](#)



2) 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会(12月)

[12/7\(土\) 里山倶楽部A<初冬の皆伐更新地区でコナラ林を育てる>](#)



[12/21\(土\) 里山倶楽部B 萌芽更新地区の植生管理\(草刈り、萌芽更新のための伐採\)](#)



#### 4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

- 生田緑地マネジメント会議自然会議の事前打ち合わせ  
12月16日(月)14:30～、於明治大学生田キャンパス

## 5. その他

### ●新規入団者

宮内 隆夫 2013/12/8 昆虫班

////////// 1~2月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

1月

-----  
12日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【里山の自然】(水田ビオトープ班)

-----  
18日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-9回 萌芽更新地区の植生管理 2

-----  
19日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)

-----  
26日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【地層】(地学班)

2月

-----  
3日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
10日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【シダ植物】(シダ植物班)

-----  
15日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-10回 植生管理

-----  
17日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。

■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

//////////《編集後記》//////////

林長閑理事が逝去して半年が過ぎました。

シンポジウムで講演を戴いた大場信義先生を15年前にご紹介くださったのは、林先生でした。

茅ヶ崎市の文化資料館の学芸員をされていた岸一弘先生を訪問するように勧めて戴いたのは、林先生と故脇一郎さんでした。

12月のシンポジウムを実現できたのも諸先輩が培われた友好の輪の一員に私どもを加えてくださったお蔭だと思います。

東京新聞の川崎版には、7月に川崎の自然調査と林先生との関わりを取り上げて戴きましたが、今年は“生田緑

地ホタルの国”、“モニタリングサイト 1000 里地調査の植物”、“生物 100 選のポスター展”と、調査団を 4 回も取り上げて戴きました。シンポジウムの広報も申し出て戴きましたが、使用する科学館学習室の大きさを考えると 100 人が限界と思い、断りました。広報手段の少ない調査団にとっては嬉しいお申出でした。

30 年間共に歩んできた川崎市青少年科学館からは、施設利用等について様々にご協力を戴きました。

当日は若宮崇令・元青少年科学館館長が八ヶ岳から駆けつけてくれました。

講師の倉本宣・明治大学教授は調査中の事故のため、車椅子での参加でした。

シンポジウム「川崎の自然と生物多様性」、展示「川崎の生物 100 選」、連携調査という一連の活動を進めるために、地球環境基金の助成金の交付を受けました。このために、参加者数がとても気になりましたが、定員を大きく上回る大盛況にホッとしました。

各班よりスタッフとして参加をして戴いた方々は大変疲れたことと思います。有難うございました。

連携調査で訪問した市内の団体の方々をはじめ、多くの活動団体の方々にご参加戴いたことも今回の成果だったと思います。皆さん有難うございました。

大勢の皆さんの協力によって充実したシンポジウムとなりましたことに心から感謝しています。

本年も、皆さまの益々の応援を期待しています。

## A Whisper of Nature 第 13-11 号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》平成 26 年 2 月 1 日配信

### 雑 想 都会の中、都市公園の中の里山

調査団のホームページを見たといって、全国各地から里山の保全に関するイベントに参加してほしいという要請のメールが、時々舞い込みます。

先日、

里山／里海では若者の都会流出による過疎化により、生活、文化、美しい景観が失われつつあります。

こうした現状を踏まえ、SATOYAMA movement 実行委員会は、「地域(里山／里海)の景観と暮らしを御洒落に格好よく変えよう！」という理念のもと、里山／里海の産業や暮らし方をメディア・楽曲・イベントを通じて発信するとともに、若者達がもっと里山／里海に集うことを呼びかけています。

という趣旨でのお誘いを受けました。

しかし、川崎の生田緑地の置かれている状況は全く異なると考えています。

生田緑地を里山と呼ぶことが、やはりおかしいことだったかも知れませんが、人の手が入ることで保全される自然がある場所として、私たちは里山と呼ばせてもらいます。

そして、生田緑地では人が集まることによる様々な都市的圧力を如何ににくい止めるかということが重要な課題となっているからです。

川崎には富士見公園、等々力緑地、生田緑地という 3 つの大規模公園があり、大勢の市民が集う都会にふさわしい公園という方向性で整備が進められています。

大都市の市街地の中に残された里山、或いは里山の自然を残す場所は、そこに棲息する生物と棲息環境を社会



資本として明示的に取扱うべきだと考えています。

公園利用者の数も一つの評価基準ではありますが、生田緑地ビジョン策定段階で議論された存在効用という全く軸を異にするものについても適切に評価しなければ、将来の川崎市民に対して説明ができないことにもなりかねません。

川崎に残された在来の自然は僅かですが、人材という資源は非常に多いはずです。

人口の多さが川崎に残された自然を破壊してしまうのか、大都市の貴重なアメニティの核として次代に引き継げるか、それは、この人材という資源を活用できるかどうかにかかっていると思われます。

尚、都市公園の中で生物多様性を保全する意義については、12月に開催したシンポジウム「川崎の自然と生物多様性」において大場信義博士が語ってくれましたので、ご参照いただきたいと思います。

水田ビオトープ班班長 岩田臣生

## 1.自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査 (1月)

1月は以下の調査を行いました。

#### ●植物班

1/8 標本整理、保管、同定作業

1/15 標本整理、保管、同定作業

1/22 標本整理、保管、同定作業

1/29 標本整理、保管、同定作業

同定作業 1/5、11、15、17、19、23、25、26、27、30

多摩区調査 1/12

#### ●シダ植物班

1/10 標本整理、保管作業

1/17 標本整理、保管作業

1/31 標本整理、保管作業

#### ●野鳥班

1/10 生田緑地調査

1/18 大師河原調査

1/24 黒川調査

1/28 黒川調査

#### ●キノコ班

1/9 生田緑地調査と同定作業

1/12 標本整理

1/23 生田緑地調査と同定作業

#### ●地学班

- 1/8 現生花粉の同定作業
- 1/22 現生花粉の同定作業
- 1/26 現生花粉の同定作業
- 1/29 現生花粉の同定作業

●昆虫班(蛾類研究グループ)

- 1/2 生田緑地調査
- 1/6 生田緑地調査
- 1/11 生田緑地調査、データベース作成作業
- 1/22 生田緑地調査
- 1/28 生田緑地調査
- 1/30 生田緑地調査、データベース作成作業

2)環境省モニタリングサイト1000里地調査 生田緑地調査(1月)

モニ 1000 里地調査に参加を希望される人を募集しています。

第 3 期のモニタリングサイト 1000 里地調査が今年度から始まっています。興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ 1000 里地調査 生田緑地連絡担当 岩田臣生

●植物相調査

1/22 植物相調査(植物班/ A 吉留、林、武久、BCD 吉田、渡部、EF 佐藤(登)、佐藤(三)、白澤)

●越冬期鳥類調査

1/7 佐野悦子、森 佳子、1/17 水田茂子、1/27 森 佳子

●水環境調査

1/23 水環境調査(水田ビオトープ班 岩田)



3) 皆でできる自然調査

2013 年春からカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べています！

★対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

今年度の纏めを基に1月24日に科学館(担当職員 堀内、永井)、調査団(P・マシヤー、岩田)で次年度の取り

組みについて話し合いました。

調査参加者(調査地点)を増やす方策を中心に意見交換を行いました。次年度の参加者が増えると嬉しいです。

その中で、環境省調査用メッシュ地図を役立て今年度コウモリ調査の成果を青少年科学館(通称:宙と緑の科学館)に展示をすることになりました。

次号団報で展示スタート時期などはお知らせいたします。

担当 岩田芳美

## 2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

### 1) 生田緑地自然観察会(1月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1~3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。

観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

#### ● 1/12 里山の自然観察

ガイド 水田ビオトープ班(岩田臣生)

参加者 16名

川崎の雑木林の構成樹種、どのような樹木が優占しているのか。落葉の意味を考えながら歩きました。

寒い冬に出会える生き物フユシヤクの仲間3~4種、10個体ほどを観察。赤い実をつけた植物、青い実をつけた植物等を参加者全員で探しながら歩きました。

参加の皆さんは寒さにも負けずにニコニコと楽しそうに観察をしていました。



#### ● 1/19 野鳥の観察

ガイド 野鳥班(佐野悦子、水田茂子、森佳子、中村亨、志村章子)

参加者 57名

A 野鳥の森~つつじ山、B 七草峠~ほたるの里の2コースに分かれて観察しました。両コースで合計23種を確認しました。

風が強く、あまり鳥を見ることができなかったのですが、カワラヒワ、ノスリはゆっくりと全員で観察できました。

ともかく人数が多く説明が聞こえないこともありました。

● 1/26 地層の観察

ガイド 地学班(菊地みどり、上西登志子)

参加者 23名

科学館前から東口～栴形山～七草峠～三叉路までの散策コースを歩き地層の観察をしました。

参加者数が説明に適切な人数で皆さん熱心に聞いていました。

観察ポイントの看板が目立たない。『露頭保全のために掘り返したり、持ち帰ったりしないでください。』等、具体的な禁止事項を明記して戴くと良いと思いました。

現況の看板では役に立ちません。



2) 里山の自然学校(1月)

1月の活動はありません。次回は2月11日(火) 冬の里山、修了式です。

2014年度の参加者募集は 2/10～3/20 としました。

要項は [http://www.geocities.jp/npo\\_konrac/satoyama-pr.html](http://www.geocities.jp/npo_konrac/satoyama-pr.html) に掲載しています。

3) シンポジウム《川崎の自然と生物多様性》、展示《川崎の生物 100 選》

シンポジウムの記録報告書は 1月31日に印刷・製本を終えました。2月から配布を始めます。

11～12月に行いました展示《川崎の生物 100 選》は、生田緑地ビジターセンター職員からの要望がありましたので、再度の展示を計画しています。

3. 自然環境の保全に関する実践的事業

1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(1月)

水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

(水田ビオトープ班)

1/7 下の田圃裏の流量計測樋の手入れ(1人)

1/9 スミレ生育地の保全活動(3人)

1/14 ハンノキ林の保全活動(4人)

1/21 ハンノキ林の保全活動(4人)

1/24 ピクニック広場東階段上斜面の草刈り(2人)

1/28 ピクニック広場～ハンノキ林上の園路沿いのアズマネザサ刈り(3人)

1/30 ハンノキ林のアズマネザサ刈り(続き)、落枝片付けなど(3人)



2) 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会 “里山倶楽部”(1月)

1/18(土) 里山倶楽部B 萌芽更新地区の植生管理(萌芽更新のための伐採など)



2月の里山倶楽部の案内は [http://www.geocities.jp/npo\\_konrac/pr-works.html](http://www.geocities.jp/npo_konrac/pr-works.html) に掲載しています。

#### 4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

- 生田緑地マネジメント会議運営会議

1月24日(金)18:30～20:30 於生田緑地ビジターセンター

#### 5. その他

- 班長会議

1月22日(水)13:00～14:30 於青少年科学館(宙と緑の科学館)

植物班 吉田、佐藤、シダ植物班 大貫、野鳥班 佐野、地学班 上西、昆虫班 野澤、きのこ班 岡、水田  
ビオトープ班 岩田、事務局 岩田、  
科学館 花道

////////// 2～3月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

2月

-----  
2日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
9日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【シダ植物】(シダ植物班)

-----  
11日(火)10:00~15:00 ●里山の自然学校<冬の里山・修了式>

-----  
15日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第B-10回 中央広場北雑木林の下草刈り

-----  
16日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)

3月

-----  
2日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)

-----  
9日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【里山の自然】(水田ビオトープ班)

-----  
16日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)

-----  
注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。

■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いします。

//////////《編集後記》//////////

新年を迎えたと思っていたら、もう1ヶ月が過ぎてしまいました。

12月1日に開催したシンポジウム「川崎の自然と生物多様性」の記録報告書の印刷が1月31日に完了しました。当初予定より部数を増やすことができましたので、ご希望の方は事務局に申し出てください。

いくらかは対応できると思います。

ただ、個人で収蔵するようなものではありませんので、できるだけ大勢の人に読んで戴けるような方法はないかと思案中です。

「川崎の生物100選」については、今でも生田緑地ビジターセンターにお問い合わせがあるようです。

先日、ビジターセンターの職員から、また展示できないかという相談をいただきましたので、3~4月ぐらいに展示を考えています。

かわさき自然調査団は長年、川崎市青少年科学館の特別展示を企画、制作してきましたので、青少年科学館の倉庫に展示作品が眠っています。

ビジターセンターの展示については、1団体、1年間に2回までという制約が決められていますから、現状では不

可能なのですが、  
この制約を解除していただけるのなら、いくらでも協力は可能です。

昨年末に思わぬ怪我をしました。  
視力も殆んど戻りましたが、PC画面を相手に作業をするのは1回30分が限度のようです。  
そんなわけで各班からお寄せいただいた活動記録は間違いはないと思いますが…不安です。

## A Whisper of Nature 第13-12号

特定非営利活動法人かわさき自然調査団《メールマガジン版団報》平成26年3月2日配信

雑 想 小さな鳥の、初めての来訪 “キマコムシクイ”



多くの冬鳥で賑わった昨冬とは打って変わり、冬鳥の種類が少なめで少し寂しい感のある今冬、とても珍しい小鳥が生田緑地にやってきてくれました。

ウグイスに似ていますが、明らかにウグイスより小さく、緑がかった色で、年明けに初めて目にした時は何の鳥か分かりませんでした。シラカシとコナラの枝から枝へと素早く飛び回るので、まともな写真は撮れないと判断、観察に徹し特徴を掴み、後で図鑑で調べたところ、キマコムシクイと同定。ただ確信はなく、その後は目撃情報もなймаま一ヶ月が過ぎた2月上旬、幸運にもまた出逢うことができました。

相変わらず敏捷に動き回っていましたが、今度はキマコムシクイと確信し、証拠写真も撮影。3日後にも確認でき、その後は地元野鳥ファンを、翻弄させながらも楽しませてくれています。

神奈川県では、1995年に大和市で記録があるだけのキマコムシクイ。

川崎のこの生田緑地に人知れずやって来て、越冬地として選んでくれたことに、感謝の気持ちで一杯です。

(野鳥班 森 佳子)

## 1. 自然環境に関する調査研究事業 “一緒に川崎の自然を見つめていきませんか”

### 1) 川崎市自然環境調査 (2月)

2月は以下の調査を行いました。

第2週、第3週と2回の大雪は活動にも大きな影響を与えました。

#### ●植物班

2/5 標本整理、保管、同定作業

2/19 標本整理、保管、同定作業

2/26 標本整理、保管、同定作業

同定作業 2/3、2/6、2/7、2/8、2/9、2/10、2/11、2/12、2/14、2/15、2/16、2/17、2/19、2/20、2/20、2/22、2/23、2/24、2/25、2/28

#### ●シダ植物班

2/7 標本整理、保管作業

2/21 標本整理、保管作業

#### ●野鳥班

2/13 黒川調査

2/18 生田緑地調査

2/24 大師河原調査

2/25 黒川調査

#### ●キノコ班

2/13 生田緑地調査と同定作業

2/27 生田緑地調査と同定作業

#### ●地学班

2/5 現生花粉の同定作業

2/19 現生花粉の同定作業



2/26 現生花粉の同定作業

●昆虫班(蛾類研究グループ)

2/13 生田緑地調査

2/20 生田緑地調査、データベース作成作業

2/25 生田緑地調査

2/27 生田緑地調査、データベース作成作業

2)環境省モニタリングサイト1000里地調査 生田緑地調査(2月)

モニ 1000 里地調査に参加を希望される人を募集しています。

第3期のモニタリングサイト1000里地調査が今年度から始まっています。興味のある人は、是非、ご連絡ください。

調査項目は、植物相調査、鳥類調査、中型哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査です。

モニ 1000 里地調査 生

田緑地連絡担当 岩田臣生

●植物相調査

(中止しました)

●水環境調査

2/24 水環境調査(水田ビオトープ班 岩田)



3) 皆でできる自然調査

2013年春からカエルやヘビ、アブラコウモリなどを調べています！

★対象種を生態系の中位に位置する両生類、爬虫類及びコウモリ類として行い、川崎市の生物多様性を示す資料として川崎市生物目録にも役立てます。

2014年も目撃情報をお願い致します。

アカガエルの卵塊、アズマヒキガエルの産卵と卵塊。何処かで見つけた時にはお教えてください。

担当 岩田芳美

2. 自然環境に関する啓発、社会教育普及事業

1) 生田緑地自然観察会(2月)(川崎市青少年科学館委託事業)

生田緑地では毎月第1~3日曜日に観察会を開催し、かわさき自然調査団がガイドを担当しています。

事前申込み不要、参加費無料、10時までに青少年科学館前に集合してください。  
観察会には時間が許す限り、サポートとして岩田芳美(事務局)が同行しています。

● 2/2 植物の観察

ガイド 植物班(吉田多美枝、佐藤登喜子、吉留憲子)

参加者 24名

冬の樹木の冬芽・樹皮・樹形の観察と草本の冬越し、ロゼット等の観察。植物の冬の姿を観察しました。

この時期は綺麗に咲いた花や感激するような景色等は見られませんが、余り目立たない植物の冬越しの姿もそれなりに皆さんの関心を引いたようです。

熱心に説明を聞いていました。質問や感想も多くあり、和やかな楽しい雰囲気での観察会となりました。

● 2/9 シダ植物の観察

降雪、積雪のため中止

2/7の科学館活動時に観察会準備も行いましたが、記録的な大雪のために中止となりました。

● 2/16 野鳥の観察

積雪のため中止

2回続けての記録的な大雪です。

★2月団報の訂正 1月の野鳥観察会ガイド氏名を訂正いたします。

誤 佐野悦子 → 正 佐藤裕子

2) 里山の自然学校(2月)

要項は [http://www.geocities.jp/npo\\_konrac/satoyama-pr.html](http://www.geocities.jp/npo_konrac/satoyama-pr.html) に掲載しています。

2月11日、冬の里山・修了式を行い、雪の残る生田緑地を歩きました。

また、2月10日から2014年度の参加者募集を開始しましたが、今回は参加者が少なくなりそうです。



3) シンポジウム「川崎の自然と生物多様性」

部数は少ないのですが記録報告書が印刷できましたので、市内の自然保全活動をしている市民団体や自然に関わる行政担当課等に配布を始めました。

また、ホームページからもPDFファイルをダウンロードできるようにしましたので、活用いただきたいと思います。

#### ● 大谷建設緑政局長訪問

2月21日(金)15:15～ 於川崎市役所

シンポジウム「川崎の自然と生物多様性」の記録報告所を持参し、大谷建設緑政局長、鈴木緑政部長にお会いしました。

その後、緑政部内の各課をまわりましたが、多摩川施策推進課では久しぶりに今井さん(現在、課長補佐)にお会いしました。

水田ビオトープ班 岩田、事務局 岩田

#### 4) 講師派遣

2月21日 上丸子小学校 自然の学習の講師 中臣謙太郎、吉田多美枝

### 3. 自然環境の保全に関する実践的事業

#### 1) 生田緑地の谷戸の自然保全活動(2月)

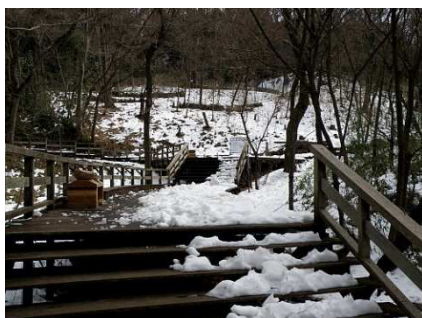
水田ビオトープ班は生物多様性保全と里山らしい景観づくりを目指して生田緑地の谷戸の水辺の再生・保全を進めています。

(水田ビオトープ班)

2/6 芝生広場付近のアズマネザサ刈り(3人)

2/18 柘形山のアズマネザサ刈り、稲目谷戸の園路の除雪(3人)

2/27 湿地の水辺保全、アズマネザサ刈り(2人)



## 2) 生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会 “里山倶楽部”(2月)

2月の里山倶楽部は雪のため中止しました。

## 4. 環境保全及びまちづくりの推進に関する協力、提言事業

### ●生田緑地の土の盗掘禁止看板の立会

2月5日(水)11:00~12:30 於生田緑地

地学班 上西、事務局 岩田

生田緑地整備事務所 磯部、清田、 富士植木 額谷

### ●生田緑地城山下谷戸の木道改修についての現地立会協議

2月5日(水)14:30~15:00

水田ビオトープ班 岩田、植物班 佐藤、事務局 岩田

生田緑地整備事務所 磯部、清田、施工業者1名

### ●生田緑地自然環境保全管理会議(自然会議)

2月19日(水)18:30~20:30 於多摩区役所10階

水田ビオトープ班 岩田(自然会議副会長)、事務局 岩田

倉本(自然会議会長)、白澤(生田緑地の雑木林を育てる会)、井口実(雑木林勉強会)

事務局/生田緑地整備事務所(佐藤、磯部、清田)、生田緑地運営共同事業体(額谷、佐藤)



## 5. その他

### ●川崎市植物誌づくりの企画会議

2月5日(水)13:00~14:30 於生田緑地ビジターセンター

植物班(吉田、佐藤)、シダ植物班(大貫)、水田ビオトープ班(岩田)、事務局(岩田)

### ●理事・班長会議

2月12日(水)13:00~15:00 於生田緑地ビジターセンター

理事/三島次郎(団長)、中臣謙太郎、岩田芳美(事務局長)

班長/植物班(吉田、佐藤)、シダ植物班(大貫)、野鳥班(佐野)、地学班(上西)、昆虫班(雛倉)、きのこ班(岡)、水田ビオトープ班(岩田)。

////////// 3~4月の予定メモ //////////

次の日程はイベント的な事業など、日時が決まっているもののみを掲載しています。

その他の活動は、各班ごとに決めて活動していますので、各班または事務局にお問い合わせください。

3月

-----  
2日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)  
-----

9日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【里山の自然】(水田ビオトープ班)  
-----

16日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)  
-----

4月

-----  
5日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部A 第14B-1回 生田緑地のコナラ林を育てる(4年目)  
-----

6日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【植物】(植物班)  
-----

13日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【春の里山の自然観察】(水田ビオトープ班)  
-----

19日(土)10:00~13:00 ■里山倶楽部B 第14B-1回 生田緑地を歩きながら、意見交換を行いたいと思います(コースは未定)  
-----

20日(日)10:00~15:00 ●第10期里山の自然学校 第1回<春の里山&オリエンテーション>  
-----

20日(日)10:00~12:00 ◆生田緑地観察会【野鳥】(野鳥班)  
-----

注) ◆生田緑地観察会は、川崎市青少年科学館主催で、事前申込不要、参加費無料、誰でも参加可能です。

■生田緑地植生管理協議会市民部会“里山倶楽部”は、誰でも参加可能ですが、必ず事前申込をお願いいたします。

//////////《編集後記》//////////

2月は雪のために活動に支障がでることが多くありました。

また、地球環境基金助成金の報告書づくりなどに追われてもいました。こうした事務を行ってくれる職員のいない調査団には、地球環境基金のような助成金は荷が重いということを痛感させられました。

私たちの活動は、私たち自身が楽しみながら直接的に行う活動なので、人を使って何かをする活動を対象にしているような国レベルの助成金は会計事務の考え方が噛み合わない部分が多く、それを合わせなければならないために、難解かつ不要と思われるような煩雑な事務を強いられていて、まだ完了できずにいます。

2月16日、元きのご班班長の山口博司さんがご逝去されました。

きりりとした言動で、人望のある方でした。

慎んでご冥福をお祈りいたします。

---

特定非営利活動法人かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

事務局:〒216-0002 川崎市宮前区東有馬1丁目1番 26-702 号

事務局携帯電話 090-2171-7214

E-mail: [npo@konrac.org](mailto:npo@konrac.org)

かわさき自然調査団のホームページ URL: <http://konrac.org/>